興隆する朝鮮



2021-2025

朝鮮民主主義人民共和国・外国文出版社
2026

興隆する朝鮮

2021-2025

朝鮮民主主義人民共和国・外国文出版社
2026

目　次

まえがき

最近、インターネットを通じて朝鮮の現実を反映した写真や動画が広く流され、世界の人々の大きな関心を集めている。

特に、敬愛する金正恩（キムジョンウン）総書記の賢明な指導の下に朝鮮労働党第8回大会が行われた2021年1月以降の5年間に成し遂げられたわが国家の非常に速い発展速度と変革ぶりは世界の人々を驚嘆させている。

首都平壌に建てられた素晴らしい市街、全国の至るところに次々と建ち並ぶ美しく特色のある瀟洒な農村住宅、新しく竣工した近代的な地方工業工場、元山葛麻海岸観光地区と平壌総合病院などは、世人に朝鮮に対する好奇心と朝鮮を知りたい衝動を呼び起こしている。

本編集部は、朝鮮民主主義人民共和国のこの5年間の発展ぶりをよりよく理解してもらうために、図書『興隆する朝鮮』を発行する。

Ⅰ. 親しい父

朝鮮にとってこの5年間は、決して平坦な日々ではなかった。

敵対勢力の挑戦と世界的な保健危機、しばしば見舞われる自然災害など条件と環境はきわめて不利であった。

しかし、朝鮮人民の心の中には、いつも自分らを温かく見守り手取り足取り導く親しい父がいた。

敬愛する金正恩総書記の肉親の情と温かい恩恵は、人民の心の中に陽光のように及んで、難関にも屈しない心の柱、変革をもたらす偉大な力の源となった。



伝説のような話（1）

人民の福祉増進のために

2021年1月、首都平壌では朝鮮労働党第8回大会が行われた。

金正恩総書記は大会で、社会主義建設の画期的前進を目指す新しい闘争路線と戦略・戦術的方針、今後の5年間に達成すべき国家経済発展5カ年計画の雄大な課題を示した。

新しい5カ年計画の中心的課題は、金属工業と化学工業をキーポイントとして投資を集中して人民経済の全ての部門で生産を正常化し、農業部門の物質的・技術的土台を強化し、軽工業部門に原料・資材を円滑に保障して一般消費財生産を増大させることである。

大会では、平壌市5万世帯住宅建設に力を集中して2021年から毎年1万世帯の住宅を建設し、検徳地区に2万5000世帯の住宅を建設してこの世にまたとない鉱山都市を建てる課題が提示された。

観光事業を活性化して人民により文化的な生活を享受させるための課題も提示された。

金正恩総書記は、新しい5カ年計画期間に人民の食衣住問題の解決で必ず突破口を開き、人民が肌で感じることのできる実際の変化と革新をもたらそうとする朝鮮労働党の揺るぎない決心を明示した。

全ての市・郡を文明・富強の社会主義国家の戦略的拠点、固有の特色を持った発展した地域にするための重要な政策的課題が示された。

また、農業勤労者を革命化、労働者階級化するための活動を優先し、農村に対する国家の支援を強め、農村を地域的特性が生かされ

るように均衡的に建設するのが当面の課題として強調された。

そればかりでなく、朝鮮を教育の国、人材の多い国に変貌させるための教育発展目標と具体的な課題、社会主義保健医療を最も優れた先進的な人民保健医療として発展させて人民によりよい医療上の恩恵を提供するための計画も提示された。

第8回党大会の提示した闘争綱領に接した朝鮮人民は大きな興奮と歓喜に包まれていた。しかし、朝鮮労働党第8回大会が提示した課題がどれほど雄大なものであり、その実現が自分の生活と国の変革的発展でどれほど大きな意義を持つかというのは、当時としては誰も考えることすらできないことであった。

金正恩総書記は党大会以降の党中央委員会総会でも、人民の福祉増進と国の富強・繁栄のための闘争綱領を明示した。

第8回党大会が終わってから1カ月も経たない2021年2月、平壌では党中央委員会第8期第2回総会が開かれた。総会では、2021年に遂行すべき経済各部門の課題とともに、平壌市に1万世帯の住宅を建設し、江原道金化郡の地方工業工場を立派に整備する問題をはじめ具体的な課題が提示された。

総書記は2021年6月に行われた党中央委員会第8期第3回総会で、国家の負担で全国の子どもたちに乳製品と栄養食品を供給するという新しい育児政策を採択するようにした。

党中央委員会総会をはじめとする重要会議で提示された闘争綱領はこれだけではない。

全国の農村に新居入りの慶事をもたらし、農業生産の持続的・飛躍的発展を目指す新時代の農村革命綱領が党中央委員会第8期第4回総会で提示された。

全国の児童・生徒・学生に国家の負担で制服と学用品を提供することを党と国家の一貫した政策として規定し、新しい形の良質の制

服とかばんを全ての児童・生徒・学生にもれなく供給するという課題と、国の教育構造を先進教育を与えられるように改善し、教育事業を決定的に改善・強化するための画期的な措置を明示した決定が、党中央委員会第8期第4回総会と第8回総会で採択された。そればかりでなく、国の教育土台の強化において最も大きな役割を果たす学校の改造・近代化を国家挙げての事業として強力に推し進め、今後10年内に全国の全ての学校を一新させるための大胆な目標が、党中央委員会第8期第11回総会で立てられた。

党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議では、全国人民の物質・文化生活水準を一段と飛躍させる「地方発展20×10政策」を強く推し進めるという歴史的な決定が採択され、それから1年足らずで行われた党中央委員会第8期第11回総会では、地方工業工場と共に追加的に先進的な保健医療施設と総合奉仕所、穀物管理施設まで並行して建設することを党の新しい地方発展政策に含めて、全国の人民を歓喜と激情で沸き立たせた。

歴史的な朝鮮労働党第8回大会と党大会の提示した課題を貫徹するために党中央委員会総会で策定された闘争綱領は、朝鮮人民に進むべき道を明示し、より素晴らしい将来への確信を抱かせた。

しかし、それよりさらに重要なことがあった。

それは、誰も容易には下せないこの全ての決断と路線と政策、困難な闘争を通じて成し遂げられた全ての成果はひたすら金正恩総書記の為民献身の労苦によってのみもたらされたということである。

新たに採択された育児法

2021年6月中旬、平壌では金正恩総書記の出席の下に朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会が開かれた。

総書記は会議で、国家の負担で全国の子どもたちに乳製品をはじめとする栄養食品を供給することを党の政策とすることに言及し、その実行のための具体的な課題と方途を提示した。総書記の提議は総会参加者の全幅の支持と賛同を受け、その実行のための決定書が採択された。

2022年2月、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議は第14期第6回会議で朝鮮民主主義人民共和国育児法を新たに採択した。

振り返ると、朝鮮はずっと前から巨額の国家資金を投じて各地に託児所や幼稚園を設けて運営し、社会的に子どもを保育・教育する体系を立てた。

朝鮮で採択された子ども向けの最初の法である幼児保育・教育法は、社会主義労働法(1978年)、人民保健医療法(1980年)よりも先に採択(1976年)された。幼児保育・教育法の採択によって、1960年代に比べて1970年代に全国的に託児所の数は4.6倍、託児所に通う子どもの数は3.6倍に増え、朝鮮は託児所の絶対数において世界の第一位を占めていた。

その後、幼児保育・教育法は1999年、2010年、2013年、2014年など数回にわたって修正・補足された。

新たに採択された育児法は、1976年に採択された朝鮮民主主義人民共和国幼児保育・教育法の附属法で、幼児栄養食品の生産と供給、子どもの養育条件の保障に関する秩序を規制している。

4章61条からなる育児法には次のような条項がある。

「国家は幼児栄養食品の生産及び供給システムを整然と確立し、全ての子どもに乳製品をはじめとする栄養食品を無料で正常に供給し、最も立派な養育条件を保障する」

新たに採択された育児法には、品質の保証された原料を粉ミルクの生産に利用し、粉ミルクの生産工程と設備を近代化し、乳加工技術を発展させて国家規格に合う粉ミルクを生産する問題、毎年8月と9月を託児所支援月間に、3月と10月は学校支援月間に制定し、託児所、幼稚園に対する社会的支援を強める問題、託児所、幼稚園の建設位置の選定問題、子どもの心理的特性に合う児童文学芸術作品の創作に関する問題も反映されている。さらには託児所、幼稚園に必要な設備と楽器、玩具などの備品と生活用水、室温、暖房及び炊事の保障に必要な電力と燃料の保障問題、子どもの保護管理問題にまで具体的に規制されている。

金正恩総書記は、この地に生まれた子ども、育ちゆく次の世代が幼年期から優れた環境で満足に食べ、すくすくと育つと、今後20年、30年後にはそれだけわれわれの社会に一層躍動する生気と活力が満ち溢れるようになり、共和国の国力は成長し強化されるであろうと語った。

次代のために国家のこうむる損失は損失でなく、子どものためにより多くの資金が支出されるほど祖国の未来が明るくなるという金正恩総書記の確たる政治信条が、新たな育児法を採択させたのである。

永遠なる国策

朝鮮には、いくら歳月が流れても一貫して堅持する政策がある。それは児童・生徒・学生のための社会主義的施策である。

2021年12月末の朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会は、全国の児童・生徒・学生に国家の負担で制服と学用品を保障することは党と国家の一貫した政策であると規定し、新しい形態の良質の制服とかばんを全ての児童・生徒・学生にもれなく供給する課題を提起し、それを実行するための党中央委員会挙げての重大措置を講じた。

朝鮮では建国当初から教育事業の発展に大きな力を入れてきた。就学前教育から大学教育に至るまで無料教育を実施し、教育発展趨勢に合わせて教育年限を持続的に増やしてきた。

2012年に全般的12年制義務教育を実施する法令を採択して2017年から国家の全ての地域で全面的に実施し、国を教育の国、人材の多い国にする高い目標を提示し、教育構造と環境を絶え間なく改善するためのあらゆる措置を講じた。

金正恩総書記は、全国の児童・生徒・学生に何の不自由もなしに学業に励むように全ての条件を十分に整えるために大きな心血を注いだ。2016年4月に新しく建設されたミンドゥレ・ノート工場を現地指導し、2017年1月には近代的に建てられた平壌かばん工場を現地指導した。2018年には複数の道に建てられたかばん工場も現地指導した。

2020年8月には児童・生徒・学生に新制服を作って供給する課題を提示し、新制服の図案創作を指示してその図案まで検討した。全国が祝日を楽しむ2022年の元日には、新たに作った制服の見本を見ながら、全国の全ての児童・生徒・学生に新たな形態の制服を生産・供給するために具体的に指導した。

その後、児童・生徒・学生の体にぴったり合うように制服を作らなければならないとし、体の寸法を測るマニュアルまで新たに作成して下達するようにした。

総会で総書記は、子どもに制服を作って着せるのは事情が許せば実施し、そうでなければ取り消してもよいという事業ではなく、無

条件に、最優先的に実施すべきわが党の政策であり、共和国の永遠なる国策であると強調した。

そうして、朝鮮では小学生から大学生に至るまで全ての児童・生徒・学生に新しい形態の制服は言うまでもなく、かばんとノート、教科書をはじめ必要な全てのものが一式に供給されるようになった。

学生少年のための活動は、経済実務的な活動である前にわが祖国



の洋々たる前途を保証する政治的活動であり、子どもの明るい笑顔はすなわち社会主義制度の象徴、朝鮮式社会主義のイメージになるというのが総書記の揺るぎない意志である。

今日、朝鮮の全ての児童・生徒・学生は、自分の名前が付いている、体にぴったり合う制服と靴、かばん、各種の学用品を国家から

供給されており、彼らの笑い声、幸せに満ちた姿によって街と村は一層明るくなっている。

90余日間の防疫大戦

全世界を一大混乱に陥れた「COVID-19」危機、数年間にわたって数多くの人々に大きな苦痛を与え、甚だしくは命まで奪った悪性ウイルスの伝播は、名実共に世界的な保健危機であった。

悪性ウイルスの発生当初の状況について振り返る必要がある。

悪性伝染病が世界各地に伝播すると、多くの国で大きな混乱が生じた。人々は長期的な隔離と封鎖の不安に駆られて、われ先に商店から商品を大量に購入した。伝染病に対する恐怖が増幅する中、金持ちは株式相場の下落を利用してぼろ儲けをした反面、数多くの人々が職を失ったり、休職を強いられた。一部の金満家は伝染病危機を逃れようと洋島に避難し、そこでの豪奢な生活をSNSに載せて広範な大衆の非難と憤激を呼び起こした。

防疫危機の対処に当たって、世界が一つの志向で団結できず、一個人の利益を優先視する行為が人々を驚愕させた。甚だしくは国家間に取引される防疫消耗品を中途で横取りする行為さえ現れた。少なからぬ人々は、個人の「自由」を云々してマスクの着用を拒否し、防疫学的間隔保持をはじめとする防疫規定に違反する会合をはばかりなく行った。その結果、数多くの人々が感染して苦しみ、ひいては命まで失った。

では、朝鮮の現実はどうだったのか。全ての人々が国家の防疫学的措置を自分のものとして受け入れ、防疫規定と規範を自発的に守った。全人民が政府の措置に従って一糸乱れず行動することに

よって、2年3カ月間も悪性ウイルスが侵入することができなかった。

2022年5月、朝鮮には数年も固守してきた非常防疫障壁に破裂が生じる国家最重大非常事件が発生した。その年の5月8日、国家非常防疫司令部と該当単位が首都の一団体の発熱者から採集した検体に対する遺伝子配列分析結果を審議した結果、それがオミクロン変異ウイルス「BA.2」と一致するということが判明した。

ところが、悪性ウイルス危機はたった90余日ぶりに制圧され、それも0.0016%という世界的に最も低い致死率を記録した。

当時、世界の人々はこれについて「世紀的な謎」「伝説のような現実」と賛嘆してやまなかった。このような現実はどうしてもたらされたのだろうか。

大流行伝染病が国内に流入されたという事実が明らかになると、誰もが当惑し、誰もがなすすべを知らなかった。

そのとき、金正恩総書記は誰よりも先にその危機に立ち向かって連日党中央委員会政治局会議を招集し、一から十、百まで対策と方途を示し、防疫現場を立ち回りながら明晰な方略を示した。

悪性ウイルスの国内流入が確認されると、総書記は5月12日、朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議を招集し、国家防疫活動を最大非常防疫システムに移行させる措置を講じた。総書記が非常防疫大戦を展開しながら第一に頼りにしたのは、党と政府、人民の一致団結した強い組織力であり、長期化した非常防疫闘争過程で培われ強まった人民の高い政治的意識と高度の自覚であった。

悪性ウイルスの伝播を抑制する上で、その成り行きにつれて管理し対策を立てれば、いつになっても防疫活動における守勢を免れることができないし、主動的に地域を封鎖し、発熱者を隔離し、責任をもって治療し、伝播空間を遮断して防疫活動における主導権を掌握しなければならないというのが総書記の意図であった。

2022年5月15日夜、総書記は平壌市内の薬局を視察した。総書記がある薬局に入った時、販売員はびっくりして後じさりした。当時、薬局の販売員は悪性伝染病を患ったばかりであり、その後遺症がまだ癒されていない状態にあった。でも総書記はそれを気にせず、販売員に近寄って何の薬が供給されたのか、薬品を規定どおりに保管しているのか、薬局が24時間サービス態勢に移行したのか、解熱剤と抗生剤はどんなものがあるのか、住民の需要の多い医薬品は何であり、値段はいくらなのかを具体的に確かめた。

それだけではない。

その日の党中央委員会政治局協議会では、人民軍軍医部門の強力な陣容を投入するという朝鮮労働党中央軍事委員会特別命令を下達した。

そうして、ほぼ3000人の朝鮮人民軍軍医部門の戦闘員が首都の数百の薬局に展開され、医薬品の調達と供給・治療活動を始めた。

総書記が90余日にわたる最大非常防疫期間に国の防疫活動を指導した文書だけでもおよそ1772件の2万2956ページに達する。その日々、総書記は高熱にうなされながらも、人民の生命安全と人民の不便を先に心配していた。

総書記は、わが党中央が歴史の試練の前で今一度自己の指導的役割を検証される時が来た、われわれは何に必要な人々なのか、われわれが誰のために生命までささげて闘うのかをより深く自覚する時である、わが党は自己の重大な責務を果敢に果たし、限りない忠実性と献身をもって祖国の安全と人民の安寧に全面的に責任を持つだろうとし、防疫戦で必ず勝利を成し遂げる決意と意志を重ねて表明した。

厳しい地域別封鎖措置が実施される中でも総書記が講じた措置によって、全国の幼児を持つ家庭に乳飲み子用粉ミルク、栄養重湯の粉が定期的に供給され、全国の育児院、愛育院、初等学院及び中等

学院、養老院に送る魚の輸送車が中断することなく走った。

5月14日には、いつも人民と運命を共にする決心と、一日も早く全ての家庭に平穏と笑顔が訪れることを祈願する気持ちをこめて、家庭で用意した常備薬を困っている世帯に贈るようにした。

一国の元首が防疫戦の第一線とも言える薬局にまで直接足を運び、家庭用常備薬を困っている世帯に贈った事実は、世界の人々が初めて聞く伝説のような話である。

人民のためなら一身の危険も顧みない方、人民への熱烈な愛を持って高熱にうなされながらも人民の生命安全のために自分の全てを尽くす総書記の志を体して、全国が悪性ウイルスとの闘争に立ち上がった。

最大非常防疫期間、全国的に住民に対する検病・検診を行い、発熱者を探し出して全快させる活動に毎日7万1200余人の保健医療従事者と114万8000余人の衛生熱誠活動家が動員され、数千人の保健医療部門経歴者が自発的に参加した。

悪性ウイルスの流入が確認された5月12日から全国の全ての市・郡が地域別に完全に封鎖され、活動単位、生産単位、生活単位別に隔絶され、毎日全住民に対する厳格な検病・検診が行われると同時に、隔離・治療が正確に実施された。

戸担当医と彼らを助けるために補強された軍医、医科大学生が感染者を探し出すために毎日何回も全ての家庭を立ち回った。隔離された家庭に対する食品供給は、特別移動奉仕隊が受け持った。

全ての薬局が24時間サービス態勢に移行し、国家備蓄医薬品が緊急解除されて住民に供給された。そうして、発熱者数は1カ月後に9万人以下に減少し、持続的な減少傾向を維持して7月29日からは発熱者が一人も発生せず、未全快者数も零を記録した。死亡者は計74人で、致死率においても世界保健史に空前絶後の奇跡となった。

婦人服展示会が残した余韻

2022年10月末から11月初めにかけて首都平壌では、盛大な婦人服展示会—2022が行われた。これまで平壌では、数多くの展示会、展覧会が行われたが、一般の衣服展示会でもない婦人服展示会が、このように大規模で開かれたのは始めてである。それには人々の胸を熱くする事由があった。

指導者の関心の中で開かれた婦人服展示会

国の中心地である平壌で国の発展ぶりを誇示する経済発展成果展覧会でもなく、あえて婦人服展示会を開催したのは、それだけ女性に対する社会的関心が高まっていることを示している。

婦人服展示会—2022は金正恩総書記が自ら発起したものである。

総書記は、軽工業部門の課題を示すときにも、女性の身なりが美しく見えるように衣服を上手に作るようにと言い、芸術公演を観覧しながらも芸能人の身なりに深い関心を払っている。ある単位で撮った写真を見て、女性がワンピースをはじめいろいろな衣服を着ているので見栄えがすると、たいそう喜んだ。夫が自分に任された仕事に奮闘できるように世話を焼き、子どもを国の頼もしい担い手に育て、睦まじい家庭を築き上げる女性の役割は、なんぴとも取って代わることができないという総書記の心の中に、女性をこの世で一番美しく、素晴らしく押し立てたい願いと熱望が満ち溢れているのである。

総書記は予定していた衣服展示会を婦人服展示会にするようにし、30～40代の女性の季節服を基本にして展示会を行うよう具体的な方向まで示した。それだけでなく、展示会場の選定から展示品の品目と比率、参加単位と審議、資材保障と展示会参加者の宿泊・給

食問題に至るまで気を配り、展示場の形成図案と展示会マーク、看板デザインと展示会の運営方法にも関心を払った。

日増しに発展する服装文化

婦人服展示会―2022は、朝鮮の服装文化の発展ぶりを示したことにその意味がある。

大型電光掲示板を中心にして造形芸術的に立体感があるように整えられた展示会場は、規模と内容において世界屈指の衣服展示会に引けを取らないものだった。

美しく咲いた花房に形象化した展示会場は、各展示台が花びらで飾られ、シンボルマークも花の周りを飛び回る蝶の模様で形象化した。200平方メートルの基本展示台が設置された展示会には、540余の単位が参加した。出展された季節服が6万余点に達するということだけでも、展示会の規模を推測することができる。

展示会場には、季節に合う多様な服装に似合うかばん、装飾品を展示したばかりでなく、ヘアピン、ブローチを展示したエリア、女性が好んで訪れる化粧品展示エリアもあった。それだけでなく、バーチャル・リアリティーを提供する増強現実鏡もあって、人々は衣服を着なくても短時間に自分の体つきや趣味に合う形態と色の衣服を選んで「試着する」ことができた。

展示会では、経験交流と討論会も活発に行われた。

展示会場を見て回った各国の駐朝大使館員らは、目覚しく華麗で、展示方式が独特であり、衣服の形態が新しくて特徴があるため、世界の名製品を見るような気がした、展示会を通じて朝鮮の前進ぶりを見ることになった、このように立派で、規模の大きな展示会を開催する国で住む朝鮮の女性は本当に幸福であると感嘆した。

臨時の丸太橋脚の鉄橋を通過した列車

2021年から屈指の大規模の鉱物生産拠点である検徳地区では、毎年、新居入りの慶事が相次いだ。

検徳地区の深い峡谷に沿って多様な建築美と独特な様式を誇る数千世帯の低層・多層住宅が建てられたのである。

数年前までは、山の斜面に古い住宅が所狭しとジグザグに建っていた検徳地区に、こんなに素晴らしい鉱山都市が広がるようになるとは誰も予想すらできなかった。

2020年10月、世界はテレビとインターネットを通じて、臨時復旧された仮設鉄橋を通過する列車を目にするようになった。それは、検徳地区の被災復興現場を視察するために出発した金正恩総書記の列車であった。

2020年9月初め、国の東部に位置した咸鏡北道と咸鏡南道が台風9号によるひどい被害を受けた。豪雨と強風によって、咸鏡南・北道の海岸地帯で合わせて2000余世帯の住宅が破壊され、少なからぬ公共建築と耕地が浸水された。なかでも検徳地区の被害は一層ひどかった。

このような緊急事態に対処して9月8日、朝鮮労働党中央軍事委員会第7期第6回拡大会議を招集した金正恩総書記は、検徳地区を早急に復旧するための国家的な非常対策を講じた。少なくとも朝鮮労働党創立記念日の10月10日までは、新しい住宅の面貌を整え、道路と鉄道を復旧し、年末までは全ての被害を癒す課題を示し、検徳地区の復興建設を人民軍に任せた。こうして、検徳地区復興のための建設事業が展開された。

それから1カ月後、金正恩総書記は検徳地区の被害復興現場に出かけた。

当時、鉄道と道路は復旧中で、総書記の行く道には危険な要素が少なくなかった。特に、丸太で枠を作り、その中に石を詰めた臨時橋脚に支えられた鉄橋は、その安全性を保証できないものであった。しかし総書記は、人民の新しいすみかが建てられている検徳地区に向かってためらうことなく列車を走らせるようにした。

検徳地区の被害復興現場にたどり着いた総書記は、総工事量の60%を遂行したことに満足を表し、施工を一つ一つ手抜かりなく行い、真心を込めたことがよく分かると軍人建設者の仕事ぶりを高く評価した。そして、被災地域の人民に10月末まで新しい住宅を提供することができてうれしいとし、罹災民の生活をよく見守るべきだと強調した。

危険極まりない臨時鉄橋を通過して行った金正恩総書記のこの日の現地指導は、検徳地区の新しい歴史が開かれる歴史的契機になった意味深い現地指導であった。

この日総書記は、住宅建設場に向かう峠道で、山の斜面のあっちこっちに平屋建ての住宅が所狭しとジグザグに建っているのを眺めて心を痛めた。

総書記はこのたび、あの家を取り壊し、新築してやれないので気が晴れない、今、自然災害が襲来し、古い家が破壊されてこそ新しい住宅を建てているが、地方建設をこのようなやり方で行ってはいけない、先ごろも言ったことだが、地方建設目標を計画的に立て、先を見通して行わなければならないと言った。そして、検徳地区に第8回党大会で提示する5カ年計画(2021～2025)期間に、毎年5000世帯ずつ2万5000世帯の住宅を新たに建設して、この地区をこの世にまたとない鉱山都市、全ての人々が羨む史上初の山岳峡谷都市にする構想と設計図を示した。今日、検徳は金正恩総書記の構想に従って建設された近代的な新しい住宅で山岳峡谷都市の壮観を成している。

検徳地区の人民は誰もが近代的な住宅で、素晴らしい山岳峡谷都市で幸せな生活を謳歌している。検徳地区の鉱山は、流失された古い設備の代わりに近代的な新しい設備が備わって生産を正常化している。

検徳地区の変革を通じて朝鮮労働党と政府は、地方建設の豊かな経験を積むようになった。まさにこのような変革のために、金正恩総書記は危険極まりない臨時鉄橋の上にためらうことなく列車を走らせたのである。

伝説のような話 ⑵

人民と共にいる

思いがけない洪水と台風による自然災害を被った人民を一番先に訪ね、深い関心を払ったのは朝鮮労働党であった。

世界を見回すと、平時は人民のために尽くすと唱えながらも、実際その人民が困難に遭うと条件や資金にかこつけて、彼らを軽視したり無視したりする政権が少なくない。

しかし朝鮮労働党と政府は、人民が困難に直面し苦労するほど、常に一番先に人民に近寄った。

金正恩総書記が自らハンドルを握って道ならぬ道をかき分けて一番先に黄海北道銀波郡大青里の水害現場に出向いたことは、思いがけない災難に見舞われたわが子に駆け付ける慈父の温情のようなものであった。

咸鏡南・北道が水害を被ったとき、**「首都平壌の全ての党員の皆さん！」**と呼び、首都党員の皆さんが決起して災害に見舞われた咸

鏡南・北道の災害復旧戦場に勇躍して駆けつけることを頼むと、真情と信頼を込めて一字一字公開書簡を書いていた総書記の姿は、不幸に遭ったわが子のために心を尽くす慈父の姿であった。

うれしい時も、苦しい時も常に人民と共にいる党中央委員会にならなければならないという総書記の志を体して、党中央委員会の幹部たちは、台風被害地域に駆けつけて人民と苦楽を共にし、肉親の情を交わしていた光景を見た世界は、朝鮮労働党の滅私奉仕精神の真意を今一度実感するようになった。

このような事実がある。

2024年7月末、国の西北部国境地域では洪水によって平安北道新義州市と義州郡の島地域の多くの住民が浸水危険区域に閉じ込められる厳しい危機が生じた。そのとき、浸水危険区域の人々は、自分たちを守ってくれるためにどれほど深い配慮が向けられているのか、どんな活動が展開されているのか、思いも寄らなかった。









危機情況が発生した直後、金正恩総書記の直接の指示により、党と政府、軍の指導幹部が現地に急派され、朝鮮人民軍空軍ヘリコプターと海軍、国境警備隊の海上警備編隊の各種の救助艇が住民救出戦闘に迅速に投入された。

洪水に見舞われた険しい道を車を走らせて現地に到着した金正恩



総書記は、随員が差し出す傘も差さず、降り注ぐ豪雨に打たれながら住民の救助・待避作戦を直接指揮した。

飛行機で救出された人民は、意外にも雨風の強い飛行場で総書記に会い、感激と感謝の涙を流し、激情の歓呼を上げた。

2025年4月、和盛地区第3段階1万世帯住宅竣工式場でのことである。

その日の竣工式場で金正恩総書記に会った人々の中には、新築された素晴らしい住宅に住むことになった一老婆もいた。

杖をついて竣工式に参加した彼女は、総書記に、新しい住宅に住みたかった願いが実現したことより、金正恩元帥に会いたかった生涯の夢が叶えられたのが一番うれしいです、本当に心残りはありません、と申し上げた。

しかし総書記は、このように近代的な住宅を今になって提供してすまない、今日、感激と歓喜に溢れている市民の姿を見ると、人民のためにより多くの仕事をする決心が固まる、みんなが新しい家で無病息災で幸せに暮すことを祈ると切々と語った。

領袖は人民のために自身の全てを惜しみなくささげ、人民は領袖を懐かしみ、領袖の志を実現するために全てをささげる血縁の関係、これが金正恩時代の渾然一体である。

感涙にむせぶテントの中

2024年7月末、水害に見舞われた平安北道新義州市と義州郡の住民は、仮設テントで生活せざるを得なくなった。

2024年8月8日、被災民が臨時に生活している仮設テントから「万歳！」の歓呼の声が上がった。

金正恩総書記が被災民の仮設テントを訪ねたのである。

被災民は、自分たちの仮設テントを訪ねた総書記を仰ぎ見ながら感謝のあいさつをささげ、感激の涙を流した。厳しい自然災害の中でも涙を知らなかった被災民であった。

総書記は被災民と膝を交え、不便な点はないのか、食事はどのように保障されているのか、病人はいないのかなどいちいち尋ね、肉親の情で生活の隅々まで細心に気を配った。彼らは、たった一度だけでも会いたいと思い、いつも心の中で待ちわびていた総書記を、

喜ばしい日、平穏なときではなく、悪天候の日、不便な所に迎えたことに恐縮していた。猛暑が続く日々で、テントの中は座っているだけでも汗がひとりでに流れ出たが、総書記はしたたる汗は気にもせず、むしろ住民たちの方に扇風機を回し、猛暑のため苦労が多いだろうと温かくねぎらった。

被災民たちは、総書記の恩情により必須の生活条件が整えられ、全国が奮い立って援助してくれて不便なことは一つもないと自分たちの心情を言った。

しかし総書記は、テント生活に不便な点が多いだろう、もう少し辛抱しよう、自然災害で廃虚のようになった所にこれ見よがしに立派な地上の楽園を築いて幸せに暮らそう、わが党に対する人民の変わらぬ信頼に感謝する、このような固い信頼があるため、被害復旧は問題にもならない、と力を込めて語った。

誰も想像すらできないことだった。昨日は洪水で氾濫する道をかき分けて被害現場に出向き、生死の境をさまよっていた被災民たちの生命を救い出すようにし、雨の降りしきる飛行場で出迎えていた総書記、今日は現地で党中央委員会政治局非常拡大会議を招集し、一日も早く立派なすみかを与えるための建設大戦を指揮していた総書記を、臨時の仮設テントで再びお目にかかるとは夢にも考えなかったのである。

仮設テントで総書記を仰ぎ見る被災民は、わが子の家を訪ねた実の親のような温情に感激し、われ知らず大声で笑いざわめき、心の内を打ち明けた。涙にもろく、いつも微笑みを絶やさず、限りない愛を注ぐ総書記の高潔な人間味に人民は魅せられた。

テントの中は感涙にむせんだ。指導者と人民間に行き交う熱と情が満ち溢れ、総書記の慈愛に感激したのである。

しかし彼らは、そのときまで自分らのためにどんな重大措置が取られるのかをまだ知るよしもなかった。

「みんな早くおいで！」

2024年8月の中旬から年末まで、つまり水害地域に近代的な新しい住宅が建てられるまで、国の北部国境地域の被災民はあらゆる条件が揃った首都平壌の4・25旅館で最上級の待遇を受けながら楽しい日々を過ごした。特に、水害地域の子どもらは最高の水準に整えられた教室で、首都の最も有能な教員の指導を受けながら、中断することなく学業を続けた。

このような伝説のような話、このような驚くべき事実には深いいわれがある。

世界の数多くの国と地域が洪水や豪雨による大きな被害を受けている。朝鮮も同じである。しかし、朝鮮で水害地域の子どもは、国家の最大の関心の中で特別待遇を受けた。

2024年7月末、朝鮮の北部の平安北道と慈江道、両江道の各地域が洪水のため前例のない甚だしい被害を受けた。金正恩総書記は、即時に強力な建設陣を派遣して、被災民に以前とは比べようもない立派な住宅を建設して提供するように国家的な対策を講じた。ところが、被害の規模が大きいので、被災民の生活が安定するまでは数カ月がかかるようになっていた。

その間、朝鮮労働党と共和国政府が一番重視した問題は、被災民の生活に可能な限りの関心を払い、見守ることであった。その中でさらに重視されたのは、児童・生徒と子どもたちを勉強させ、保育・教育する問題であった。

初歩的な集計によると、被災民の中で学齢前の子どもは2198人、児童・生徒は4384人にも達した。

8月8日、平安北道義州郡の水害地域を再び訪れ、災害復旧のための重大措置を取った金正恩総書記は、被災民が生活している仮設テントを訪ねて彼らを温かく慰めた。そして、持参してきた食品を子どもに食べさせ、きれいな服も着せながら、子どもを見ると本当に力が湧く、われわれが何のために闘争し、何を守るために強くなければならないのかを一層重く感じるようになると語った。

翌日、義州郡の被災民と再会した総書記は、重要演説で災害復旧と関連した党と政府の立場を明らかにし、彼らをねぎらった。そして、住宅建設が終わって生活が安定するまで2、3カ月はかかるだろうとし、水害地域という環境の下で子どもと児童・生徒の生活と教育が問題になる、水害復旧が終わるときまで子どもがテント生活や同居生活をすれば大変不便だろう、重要なのは彼らの教育に少なからぬ影響を及ぼすようになることだと言った。また、子どもと児童・生徒の保育と養育、教育問題はどんなことがあっても絶対におろそかにしてはならない第一の国事であると強調した。

総書記は被害復旧期間、被災民家族の子どもと児童・生徒をみな平壌に連れて行って国家が全面的に負担し、安全かつ便利な環境の下で保育と教育を受け持って提供する非常体系を稼動させるという重大措置を発表した。

こうして、国境沿線と北部内陸の各被災地域の子どもは、老人や子持ちの女性、戦傷栄誉軍人と共に平壌行きの列車に乗ることになった。

金正恩総書記は水害地域の住民と共に子どもたちが平壌に到着したときは、自ら宿所に出向いて**「……生徒と子どもの皆さん！　みんな早くおいで！」**と親しく呼びながら歓迎演説を行った。子どもの食事室に足を運んでは、甘えてすがりつく子どもたちに、ご飯を十分に食べ、すくすく育って家庭と国に笑いの花を咲かせる幸福童になれと温かく言った。

子どもたちに注ぐ総書記の愛には限りがなかった。旅館の憩いの場に足を運び、新しい制服と学用品の供給を受けて喜ぶ水害地域の児














소년혁명가
학습제일주의









童・生徒たちに会った総書記は、彼らに自らかばんも背負わせ、みんな新しい制服を着たので本当に可愛い、共に上がってきた母が喜ぶだろうと満足の意を表しながら、今後勉強に励み、身体も丈夫に鍛えて家庭の喜び、国の喜びにならなければならないと情を込めて言った。

翌日、水害地域の児童・生徒の新学期授業準備の一環として行われた小学班の模範授業を参観した総書記は、教育設備と教具・校具の準備状況をいちいち確かめ、彼らが利用する学用品も見た。そして、臨時に設けた初級班、高級班の教室を見て回りながら、ここで勉強することになった全ての児童・生徒は、水害地域の人民が党と政府を全面的に信頼して預けた子どもなので、彼らが学業に専心できるように格別の関心を払い、誠意を尽くすべきだとねんごろに言った。

次世代のためなら空の星でも取ってくるという絶対の信条を持った総書記の愛と国家の全面的な配慮の中で、水害地域の子どもたちは紋繍遊泳場、綾羅人民遊園地など文化・情操生活の場で楽しい平壌滞留の日々を過ごしながら中断することなく教育を受けた。

ゴムボートの上で下した決心

2024年7月29日、金正恩総書記が風雨の激しい飛行場で、浸水危険区域に孤立して生命を脅かされていた5000余名の住民救出作戦を直接指揮したその翌日であった。

全てが水浸しになり、誰もいない閑散な浸水地域に総書記が乗った列車が徐々に入った。

総書記は、幹部たちに自分と共にゴムボートに乗って浸水現場を



見て回ろうと言った。
実際、被災地域の住民の救助戦闘を現地で指導した総書記は、誰より水害状況についてよく知っていた。空中撮影写真も見、被災地域に対する具体的な実態資料の報告も受けていた。しかし、あえて総書記がゴムボートに乗ったのは、美しい生活と思い出がこもった貴重な生のよりどころを失った人民の苦難を自分がじかに体感してみなくては、彼らの苦しみを10倍、100倍に解消する復旧対策を現地で立てなくては、どうにも気持ちが落ち着かないからであった。
ゴムボートは前途も水底も全く把握できない浸水地域へ進んだ。そのときふと、ゴムボートが渦中に巻き込まれて一方に傾いて滑っていった。その瞬間、水に浸った街路樹の木の枝が総書記の前に垂れていた。しかし、総書記はそれをものともせず、そのままゴムボートを前進させるようにした。そのとき、幹部たちは総書記の心中をまだ知らなかった。
総書記は自然の大災難によって幸せな生活を失った人民のことを考えていた。やがて朝鮮労働党が下す決心を期待している被災地域の人民の気持ちを察していた。
洪水に全てを失っても自分に向けて万歳を叫びながら涙ぐんでいたいつわりのない人民、まだしばしば大雨が降り、真夏の耐え難い猛暑の日によりどころを失って不便をなめている人民の苦しみを思う総書記の胸は痛かった。
総書記にとって人民は、生命は言うまでもなく、生活の些細な細部も失うことのできない、失ってはならない大いなる存在であった。
金正恩総書記は、被災民がなめている苦痛に胸を痛め、彼らに必ずより大きな幸福を与える決心を固めていた。わが子の痛みを癒すためなら、ためらうことなく身をなげうつ慈父の愛情をもって総書記は重大決心を下した。
その日、総書記がゴムボートに乗って浸水地域を見て回った時間はほぼ2時間に達した。そのゴムボートの上で総書記は、共和国の変革の新しい歴史を飾る社会主義の理想郷、すっかり様変わりした島

村の設計図を構想した。それから数時間後、洪水地域と堤防一つを挟んだ浸水田の上に立ち止まった列車の会議室で、党中央委員会第8期第22回政治局非常拡大会議が開かれた。
総書記は会議で、被災地域住民の生活を早急に安定させるために非常災害用備蓄物資を緊急提供する問題をはじめ、被害復旧と関連した課題と方途を示し、災害発生の際、救助作業に迅速に動員できる必須救助装備と機材を早急に備蓄するための重大措置を発表した。
総書記の措置に従って強力な建設陣が被害復旧に動員され、建設事業が急速に進められた。
こうして、ひどい自然災害を被った平安北道と慈江道、両江道の水害地域に現代文明が集約された理想的な「農村文化都市」、仙境村が次々と立ち並んで意義深い竣工の日を迎えた。
金正恩総書記は、平安北道被災地域の住宅竣工式で行った意義深い演説で、今日われわれは、130余日にわたる苦難に満ちた被害復旧建設を通じて水害地域に永久の保護障壁を築き、地域人民の生活の場をつくり上げた誇らしい結果を総括し、意義深い竣工式を行うようになったとし、この壮大な変化はわが党が正確な決心を下し、や



りがいのある仕事を成し遂げたという自負と共に、社会主義理想がどれほど立派で、自らの力と奮闘で難関を克服して進むわれわれの偉業がどれほど神聖かつ栄誉あるものかを再三実感させられたと誇り高く述べた。







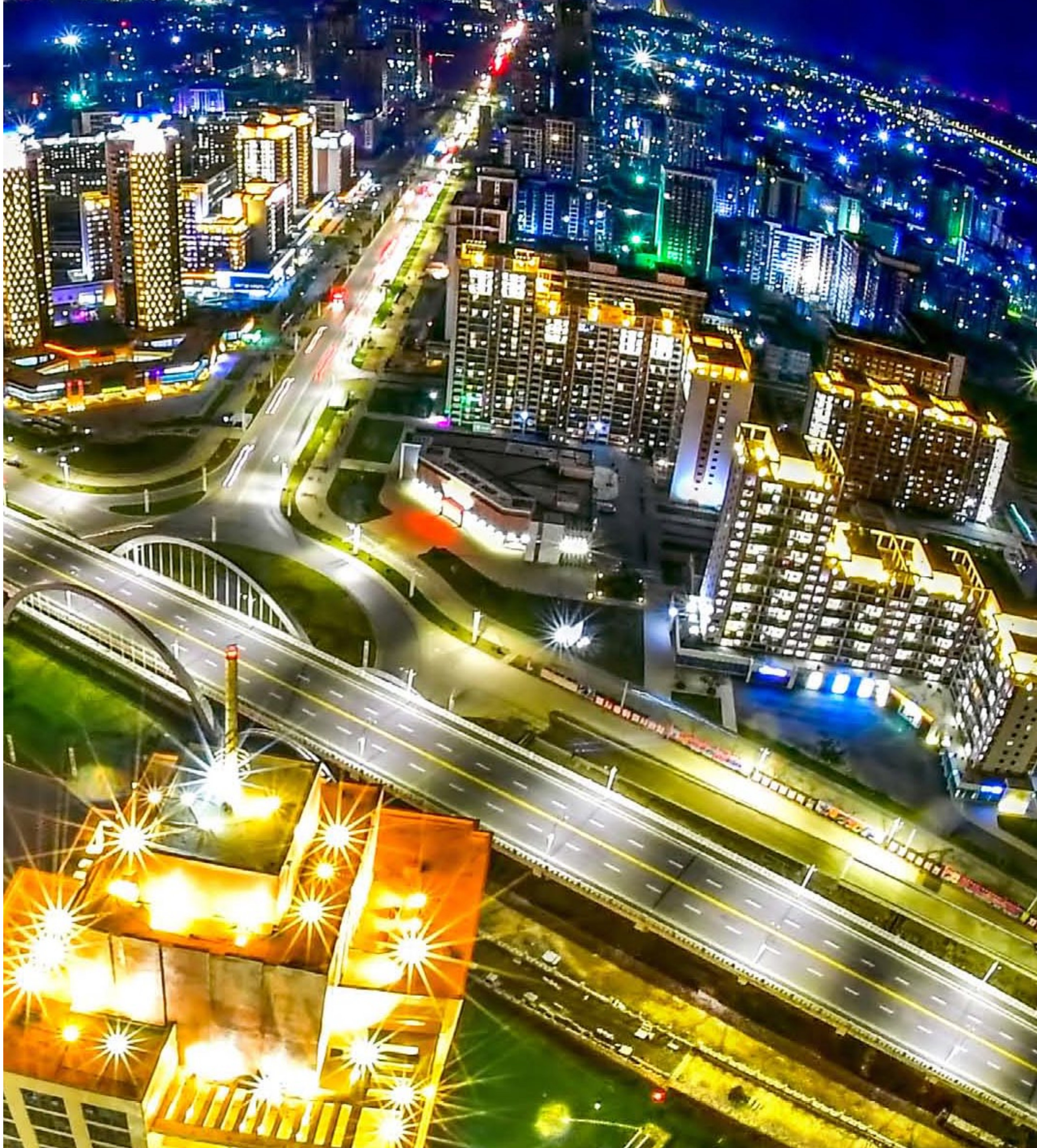




2. 興隆する国

ほぼ80年を数える共和国の歴史に、今日のように短期間に政治と経済、文化と国防など社会生活の各分野において同時多発的な変革が起きた時期はなかった。

金正恩総書記の提示した闘争課題と果敢かつ適時的な決断、ねばり強い実行力こそ、全面的国家興隆という歴史にかつてなかった変革の新時代をもたらした根本要因であった。



幸福と栄光の都市—平壌

雄大な首都建設構想

2021年1月に開かれた朝鮮労働党第8回大会は、首都の建設に新たな変革をもたらした画期的転換の契機だと言える。

金正恩総書記は朝鮮労働党第8回大会で、5カ年計画期間(2021～2025)内に首都平壌に毎年1万世帯の住宅を建設して首都の住民の住宅問題を基本的に解決するという雄大な課題を提示した。

当時、5万世帯の住宅の建設を決心するというのは、容易に下せる勇断ではなかった。世界が悪性伝染病に襲われていたし、国の経済状況も苦しい状態にあった。

その上、国家が住宅を建てて人民に無償で割り当てる制度が立てられているため、外部の目で見るとき、住宅建設は文字通り「回収を前提としない出血的な投資」であったのである。

一方、敵対勢力は絶え間ない戦争演習騒ぎで地域の情勢を緊張させながら、なんとしても朝鮮の前進を阻もうとしていた。

しかし、金正恩総書記はこのように困難な条件の下でも毎年1万世帯の住宅を建設する大勇断を下した。総書記にとって平壌市5万世帯住宅建設は、首都市民により安定した文化的な生活条件を提供するために、朝鮮労働党が大胆に構想し、準備してきた宿願事業であった。また、国家の財産と勤労者大衆の創造的労働の結果をそのまま勤労者自身の福祉とならしめるための崇高な事業でもあった。

実際、第8回党大会で5万世帯住宅建設構想が示された当時にしても、多くの人々はその雄大な展望についてその全容を知ることができなかった。しかし、毎年行われる平壌市1万世帯住宅建設の着工式に参加して行った金正恩総書記の意義深い演説と、1年経てば間違いなく建ち並ぶ膨大かつ近代的な大建築群を目の当たりにして初めて、朝鮮労働党の首都建設構想がどれほど壮大で雄大なものであるかを実感できるようになった。

2021年3月、平壌市1万世帯住宅建設の着工式に参加した金正恩総書記は、これから始める5万世帯の住宅建設は、首都平壌の都市区画を東西方向と北の方向に拡大し、大規模で近代的な新しい市街を形成する歴史的な事業だと言明した。翌年2月に行われた和盛地区1万世帯住宅建設の着工式でも、総書記は、和盛地区にこれから3年内に数万世帯の住宅と公共建築、サービス施設が立ち並ぶ壮大な市街を打ち建てる構想を示した。

金正恩総書記の雄大な首都建設構想に従い、平壌では2021年から毎年1万世帯住宅建設が力強く展開された。その結果、松新・松花地区に松花通り(2022年)が、和盛地区には和盛通り(2023年)、林興通り(2024年)が建ち並び、2025年に和盛地区第3段階1万世帯の住宅が、2026年には和盛地区第4段階1万世帯の住宅が壮大かつ華麗に建設された。

それればかりではない。2022年に1万世帯住宅建設とは別途に800世帯の普通江川岸段々式住宅区が建ち並び、2023年に大平地区の住宅が、2024年には80階建て超高層住宅を象徴建築とする4100余世帯の前衛通りが建設された。

首都の5万世帯住宅建設を単に平壌の様相を一新させるためのこととばかり理解してはならない。

金正恩総書記は、2021年3月、平壌市1万世帯住宅建設の着工式で行った演説で、1万世帯住宅建設がたとえ膨大な工事ではあるが、首都市民の生活と直結しており、党大会の決定を狂いなく貫徹するための初年度の重要な政治的事業であるため、無条件に推し進めることにした、この過程で国家の潜在力とわが人民の創造力は今一度大きく誇示されるであろう、という確信を表明した。

総書記は、壮大な建設の大激戦が繰り広げられる過程で動揺と無能が克服され、勇気と知恵が発揮され、後進性と停滞が打破され、進歩と革新が起こり、未来へと突き進むわが国家と人民の力はさら

に強大になるだろうということを見通した。
　首都の変革過程は、わが国家に開かれている建設の大繁栄期の一部分だと言える。
　金正恩総書記はすでに、建設の大繁栄期をもって新たな建設史を創造し、建設部門における革新ののろしが社会主義建設の全ての部門で大飛躍の炎として燃え上がるようにして、祖国繁栄の新時代を開こうという自身の構想と意図を披瀝したことがある。
　実際、建設はすなわち進歩であり、変革であり、未来への投資だと言える。建設を優先させて力強く推し進めることによって、経済の持続的成長のための新たな能力を備え、文化的進歩の拠点をより多く整えて、国家社会生活の全ての領域に人民が喜ぶ実際の変化をもたらそうというのが総書記の意図である。
　総書記は、建設部門が全ての部門の先頭に立って時代の文明を先導し、力強く前進してこそ、人民の闘争熱意が絶えず高まり、人民大衆中心の社会主義が活力に満ちて前進し、興隆・繁栄の祖国の明日も早まるのだと見なしている。
　実際、建設の大繁栄期が開かれる過程で建設部門は飛躍的な発展を遂げ、国の各地には近代的な建築物が数多く建設された。建築の発展は建材工業、金属工業、機械工業、電力工業など経済各部門の発展を促した。多数の産業施設が建てられて国の経済的土台がさらに強固になり、世界的水準の文化・情操生活の場が建てられて人民の文明水準ははるかに高まった。
　重要なのは、建設部門で驚くべき成果が収められて、朝鮮労働党の人民大衆第一主義政治と社会主義制度の優越性が高く発揮されたことである。また、朝鮮労働党が志向する創造の基準、美しい未来像を直観的に認識させて新時代の文明へと導くだけでなく、全ての人民がより良い明日への確信に満ちて社会主義愛国偉業に献身するように鼓舞したということである。
　このような躍動する現実は、わが国家の活気に満ちた前進と発展が厳然たる実物であることを世界に立証して見せた。

松新・松花地区に響いた壮快な爆音

　2021年3月、首都建設史に今一つの意義深い里程標を記すことになる平壌市1万世帯住宅建設の着工式が平壌の東の関門である松新・松花地区で行われた。
　これは、2021年1月初めの朝鮮労働党第8回大会と党中央委員会第8期第2回総会の決定に従って、5カ年計画期間に首都平壌に5万世帯の住宅を打ち建てるための壮大な事業の開始であった。
　金正恩総書記は、平壌市1万世帯住宅建設の着工式に出席して人民への熱烈な愛と建設者への限りない信頼のこもった情熱的な演説を行った。
　総書記は演説で、首都平壌に5万世帯の近代的な住宅を建設するのは、首都市民により安定した文化的な生活条件を提供するために、わが党が大胆に構想し準備してきた宿願事業であるとし、大規模な住宅建設作戦は、何らかの経済的利益のためのものではなく、徹頭徹尾、国家の財産と勤労者大衆の創造的労働の結果がそのまま勤労者自身の福祉となるようにさせるための崇高な事業であると述べた。
　続けて、今日はわれわれが鍬入れをするが、数カ月後にはこの地域に新しい人民の市街、われわれが誇りとする素晴らしい大建築群が生まれるだろう、この世で一番立派で偉大なわが人民の幸せのすみかになる理想的な市街の建設に汗と情熱を惜しみなくささげることより誇らしく幸せな、誉れ高いことはない、より美しく、より壮大な変貌を遂げるわれわれの首都の明日のために、その中で、新しい文明を思う存分創造し享受するわれわれの父母兄弟と子どもたちのために、第8回党大会の決定の確かな実行のために、皆でともに力強く闘っていこうと熱烈に呼びかけた。
　実際、2021年の平壌市1万世帯住宅の建設は当時としては容易に下せない勇断であった。5年前の黎明通りの建設を始める時とは全く状況が異なっており、さらにはその何倍もの作業量を短時日内にやり遂



げなければならない膨大な工事であった。その上、世界的な保健危機の中で行われるので、一層困難なことであった。

しかし、金正恩総書記は首都市民の生活と直結しており、党大会の決定を貫徹するための初年度の重要な政治的活動である住宅建設を無条件に推し進める揺るぎない意志を表明したのである。

首都の5万世帯住宅の建設はこのように始まった。

毎年、違えることなく着工と竣工を重ねる過程で人民の幸福の笑い声は一層高く響き渡り、自分の力に対する自負は一層高まり、より明るい未来へ向かって力強く前進しようとする熱意はさらに強まった。

人民の要求と利益の実現を最大の重大事とする金正恩総書記の人民大衆第一主義政治によって首都平壌は新しい文明開花期を迎えるようになった。



普通江川岸段々式住宅区

美しい玉の楼という意味で瓊楼洞と命名された普通江川岸段々式住宅区は、金正恩時代の朝鮮がどんな創造物をいかに創造しようとするかを窺い知ることができるようにする。

普通江川岸段々式住宅区は、自然環境をそのまま生かしながら建物と自然の完全な融合、生活空間と生態空間の有機的かつ科学的な配置を実現している。

以前から普通江川岸地区に段々式の特色のある住宅区を建設する構想を練り上げていた金正恩総書記は、2021年、首都の1万世帯住宅建設とは別途にこの建設を進めるようにした。

総書記は、1カ月余りの間にも240余枚の設計図を検討し、高級住宅としての様相が生かされるように手間を掛けて指導した。建物の配置や形態をより多様にすることをはじめ、形成の細部に至るまで一つ一つ完成させた。

金正恩総書記は、ここで住むようになる住民の交通上の便利を



図って新たな旅客運行路線を設けるようにし、商店と便益及び給食施設を配置できるように住宅区画を広める問題にも関心を払った。住民が住宅地区を遠回りせずに真っ直ぐに下りて来て交通手段を利用できるように小道をつくり、住宅区画と周辺の園林・緑化を高いレベルで実現し、普通江畔の公園も立派に整備するようにした。

総書記のエネルギッシュな指導により、普通江川岸段々式住宅区は、現代性と利便性が結び付いた高級住宅地区として建設された。

普通江川岸段々式住宅区のような近代的な住宅地区を至る所に建設しようというのは、わが国家が近い将来に達成しようとする目標である。

そのため、首都では2021年から2025年までの期間に5万世帯住宅を建設するための事業が進められた。各地方と農村でも住宅の建設が積極的に推進されている。

こうした側面からみて普通江川岸段々式住宅区の建設は、領土の大部分が山地からなっている状況で特に重要な意義があった。それは、普通江川岸段々式住宅区の建設における成果と経験に基づいて、近い将来に首都と地方の様相を一新させることができるからであった。

たとえ当時は800人に達する各部門の模範的な勤労者とその家族が高級住宅区の住人となったが、今後は全国の人民がそのような住宅で暮らすようにさせようというのが金正恩総書記の構想であり決心である。総書記が数回にわたって建設現場に足を運び、傾斜面、山地を住宅建設に効果的に利用できる新しい模範を創造するよう精力的に指導したのはまさにそのためなのである。

今日、金正恩総書記の構想は立派な現実となっている。瓊楼洞をそのまま移したかのような素晴らしい住宅が、全国各地の農村に建てられている。

普通江川岸段々式住宅区—瓊楼洞の実体は、自分の手で自分の幸せのすみかを美しく整えていく朝鮮人民の愛国熱と創造的喜悦をさらに高揚させている。

文明と発展を示す平壌の新市街

近年、首都の和盛地区に建設された新しい市街は、現代文明と朝鮮の建築の顕著な発展を示しているがゆえに、平壌を訪れる外国人の関心の対象となっている。

和盛地区第3段階建設が終わって和盛地区が一つの行政区域にふさわしい政治的・経済的・文化的機能を確保し、首都圏の既存地域を文明開化へ先導できる中心、モデルとしての姿をはっきりと現したのである。これは、国家の創建以来数十年の変化を経た過去の平壌と今日の近代化された平壌が克明な対照を成す新しい都市区域の誕生だと言えるほど意味深い発展である。

320余ヘクタールの広い敷地に3万世帯もの住宅が立ち並んだ和盛地区は、それこそ壮観を成している。

3段階に分けられた各市街には、建築形成全般を主導する特色のある象徴建築がある。これに他の建築物の色合いや形態などが服従されており、超高層・高層・低層住宅が造形芸術的に組み合わされている。基壇層に形成したサービス建物の様相も新しく、ユニークなものに設計された。特に、和盛大同江ビアホールと高架橋形式の連結サービス施設建物は、外国人に深い印象を与えている。

和盛地区の各市街は建築様式や造形芸術性において互いに区別されており、建築空間上において立体感が出ながらも奥行きがある。建物の屋根形式と直観物装飾、園林景観も大変豊かである。

人口一人当たりの園林面積も世界的な生態都市の園林面積にほとんど相当する。外国人は、和盛地区こそ実用性と多様性、連関性と造形芸術化が一つに調和した現代都市のモデルだと言っても過言ではないと評している。

外国なら数十万ドルに達する住宅を平凡な勤労者に無償で与えたという事実もまた外国人を驚かせている。

彼らの驚きはそればかりではない。彼らは、朝鮮の建設者が4年間に毎年1万世帯分の住宅からなる新しい市街を一つずつ建設したという事実に驚嘆しており、現在、和盛地区にセッピョル通りと和盛地区第4段階1万世帯住宅が建設されてこの地区の姿がまた特色あるように変貌したことに感動を表している。

金正恩総書記は、和盛地区に建築造形芸術性と先進文明が立派に結合して理想的な調和を成した近代的な超高層・高層住宅と象徴性の強い特色のある商業及び給食サービス施設を建てるように、建



設の全過程を細かに指導した。総書記のエネルギッシュな指導により、和盛地区は素晴らしい社会主義理想郷に変わり、人民の享受する幸福な生活とわが国家の明るい未来を実感させる歴史の記念碑となったのである。

青年建設者たちが首都の北の関門に建設した前衛通りも、総書記の賢明な指導を抜きにしては考えられない。

平壌の美しくてユニークな建築物は、インターネット上でも多くの人々を感嘆させている。

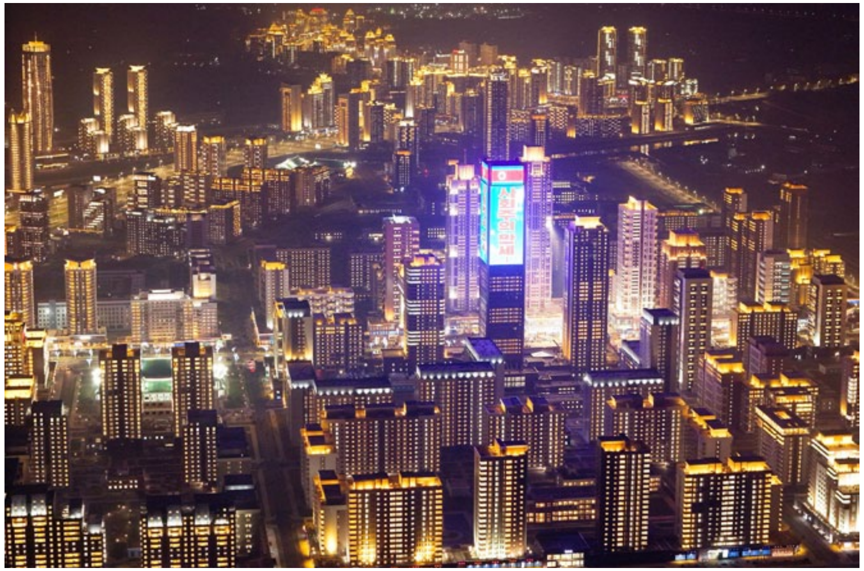
「朝鮮は制裁を受けていない外国の多くの都市よりはるかに近代的である」

「平壌は北京とソウル、東京を凌ぐアジア最高の都市になるだろう。東方の偉大な星、朝鮮民主主義人民共和国の首都平壌万歳！」





자력부강
자력번영













文化的で豊かな理想郷に

三つの重要軍事基地が
大規模温室農場に

米国とその追随勢力は朝鮮の前進を望まず、なんとしても軍事的圧殺企図を実現しようと核戦争演習騒ぎと軍事挑発を片時も中断したことがない。こうした状況の下で、軍事基地は国の平和と安定を守る上で重要な意義を持っている。

しかし、朝鮮では三つの重要軍事基地に大規模温室農場が建てられる驚くべき現実が繰り広げられた。

常に咸鏡北道の人民に四季青々とした各種の野菜を十分に供給するために心を砕いてきた金正恩総書記は、鏡城郡仲坪地区の重要軍事基地を撤去し、その位置に大規模の温室農場を建設する構想を抱き、現地で温室農場建設の青写真を示した。1カ月の間に2回も現地に出向いて敷地を定め、建設を受け持つ人民軍部隊を派遣するなど、温室農場の建設を精力的に導いた。操業の日には自ら操業テープを切りながら、地理的には遠近があっても、自身の心の中には遠い人民と近い人民があり得ない、温室農場が咸鏡北道の人民の食生活に役立つなら、それ以上うれしいことはないと言った。

人民の幸福のためとあらば何も惜しまない金正恩総書記の人民大衆第一主義政治が生んだ今一つの伝説だと言える。

2019年12月に完工した仲坪温室農場は、1年余りの間に建設された、当時としては朝鮮で規模が最も大きい近代的な温室農場である。

200ヘクタールの敷地面積に半アーチ型の二重フィルム温室を含む320棟の水耕温室と土壌温室が近代的に建てられ、育苗場や数百世帯の住宅も立派に建設された。また、温室の管理と野菜栽培の近代化水準は当時として非常に高い水準であった。

大規模の温室建設はそれだけにとどまっていない。



金正恩総書記は、仲坪温室農場の建設工事たけなわの2019年4月、すでに新しい温室の建設を設計していた。咸鏡南道咸州郡連浦里一帯に仲坪温室農場より一層膨大な規模の近代的な温室農場を建てることを決心し、自ら現地を視察したのである。

金正恩総書記は、人民に新鮮な野菜を供給するためにこの地区の重要軍事基地も撤去させるようにした。総書記はその後も、連浦温室農場の建設に関する数回の指示を与え、設計も自ら検討した。

総書記は、建設予定地を現地で確かめながら、今回建設しようとする温室農場の設計案にはすでに建設した仲坪温室農場の長所や欠点を全て参考して反映し、科学技術の面でも経営の面でもさらに発展させなければならないと強調し、温室の近代化水準をさらに高めるようにした。

そして、すでに仲坪温室農場の建設に参加して多くの経験を積ん

だ軍部隊に新しい温室農場建設を任せるようにし、温室農場が完工すれば翌年から運営できるように技術者や従業員の選抜と教育、野菜種子の提供、農業機械と営農物資の確保を同時に推し進めるよう細かに指導した。

将来を見通してあらゆる事業を綿密に設計し、科学的に推し進めていく総書記のエネルギッシュな指導により、新しい温室農場建設が着工された。

2022年2月18日、連浦温室農場建設の着工式に参加した金正恩総書記は、情熱的な演説を行い、自ら着工式で鍬入れをし、発破のボタンを押した。

連浦温室農場はわずか230余日の間、それも最大非常防疫期間に完成された。

280ヘクタールの広い敷地に近代化、集約化、工業化が実現された850余棟の水耕・土壌温室が建てられ、地方の特色を生かした1000余世帯の住宅と学校、文化会館、総合サービス施設などが区画別に調



和を成して建てられ、この地域は文字通り新時代の文明を誇る一つの大農場地区となった。

このように金正恩総書記は、膨大な連浦温室農場の建設を通じて農村建設の新たな基準を創造した。

連浦温室農場を数万トン生産能力の大規模野菜生産拠点に建設すると同時に、先進的な農業技術を普及する実物教育農場、朝鮮式農村文明創造の新たな拠点、名実共に住み良く働くのも楽しい社会主義文化農村に建設し、これを基準にして国の全般的農村の発展を一層強力に、確実に推し進めようというのが総書記の構想であった。

2022年10月10日に盛大に行われた連浦温室農場の竣工式に参加した金正恩総書記は、大規模の近代的な温室農場の建設によって国の経済と科学技術の発展で大きな役割を担い苦労している咸興市の労働者や科学者、咸鏡南道の人民に四季新鮮な野菜を正常に提供できるようになったとたいそう満足した。

その後、規模や生産能力が以前よりはるかに大きい今一つの大規模温室農場が首都の郊外の江東地区に建設された。この温室農場もやはり重要軍事基地を撤去して建てられた。

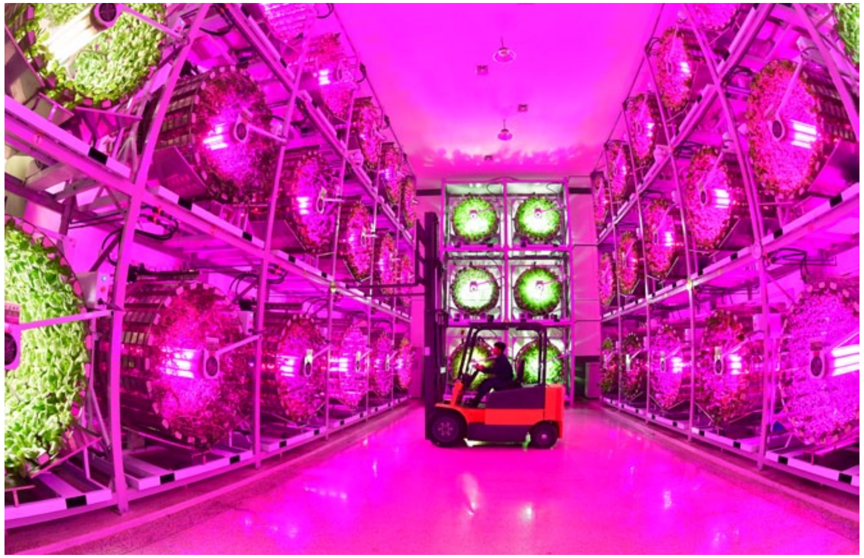
2024年に竣工して操業を開始した江東総合温室農場で特に注目すべきことは、野菜の栽培の科学化、集約化、工業化に有利で、経済的に実利の大きい近代的なガラス水耕温室の占める面積が仲坪や連浦に比べて数倍も大きいということである。

江東総合温室農場建設の日々に金正恩総書記が検討した建設総計画案と鳥瞰図をはじめとする形成案は300余件、技術設計図は3280余件に達した。こうして着工して1年しかならない短期間に260余ヘクタールの敷地面積にほぼ120万平方メートルの延べ建築面積を有する1050余棟の各種の温室と生産及び公共建築、住宅が建設されるようになった。

2025年2月10日、国の西北部国境地域では新義州温室総合農場と野菜科学研究中心建設の着工式が盛大に行われた。着工式場には、地域改変事業を担当・遂行する朝鮮人民軍海軍、空軍部隊の将兵と白頭山







英雄青年突撃隊の指揮官、隊員が参加した。

近年4回目となる今回の大規模温室農場の建設も、強い川風に砂埃だけが立つ島地域を人民が文明的かつ裕福に暮らせる社会主義楽園にしようとする金正恩総書記の崇高な志によって決行される重大国事である。

総書記の構想と意図に従って島地域には、近年建設された大規模の温室農場よりさらに膨大な面積に、さまざまな類型の野菜温室と野菜加工工場、貯蔵施設だけでなく、野菜科学研究中心と試験栽培温室、数百世帯の住宅と旅館、便益サービス施設まで同時に建設された。

鴨緑江畔にずらりと立ち並ぶ近代的な住宅を背景に近代化、集約化、工業化の実現した大規模の野菜温室が建設されたこの島地区は、自分の強固な発展潜在力を持つ地方発展の特色のある拠点だと言える。

農村建設の第1順位―住宅建設

国の一部の地域だけではなく、全ての農村を現代的技術と文明を兼ね備えた裕福で文化的な農村にしようとするのは、朝鮮労働党と共和国政府の構想であり意図である。

その構想に従い、全国各地で近代的な新しい農村住宅の建設が積極的に推進されている。全ての農村を社会主義にふさわしく、当該地域の特性がはっきり生かされるように建設し、農村の住民に立派な生活環境を提供するための活動が大々的に繰り広げられて、新しい農村住宅が雨後のたけのこのように建てられている。

農業勤労者は国家が建てた立派な住宅を無償で提供され、新しい住宅で安定した文化的な生活を享受している。

このような現実は地球上のどこでも見られることではない。

2021年11月15日、金正恩総書記が国の北部両江道三池淵市の建設を現地で指導していたときのことである。

三池淵市胞胎洞に出向いた総書記は、胞胎地区に住宅が合わせて何世帯であるのかを確かめ、住宅1世帯にセメントがどれぐらい使われたかについても具体的に聞いた。答えを聞いた総書記は幹部たちに、理想を高く立てなければならないと強調し、われわれは現代文明を創造するという理想と抱負を持って引き続き突進すべきであると言った。

実際、そのときまでも幹部たちは、総書記がどのような崇高な志を抱いているのかを知らなかった。

続けて幹部たちと共にこれまで農村住宅を建設しながら一つの里で消費したセメント量についても一つ一つ確かめた総書記は、現在何よりも重要なことは、社会主義農村建設を力強く推し進めて農業勤労者に近代的な住宅を提供することであると強調した。

総書記は、農業勤労者の生活環境を改善することを農業生産を増やすための重要な政策的問題と見なしていたのである。

それゆえ総書記は、農村建設における第1順位は農村住宅の建設であるとし、農村の文化生活環境を改善するのは朝鮮労働党が優先的に打ち出している課題であると言った。

総書記は、全ての農村住宅を地域的特性に即して平野地帯や山間地帯の特性が生かされるように建設すべきである、一つの市・郡に1年にセメントを1万トンずつ提供して農村住宅を三池淵市内の農村住宅水準に建設するとすれば、30～40年後には全国の農村がその固有の特性を持つ発展した文化農村になるだろうと言った。また、農業勤労者を知識型の勤労者、発展した文明の享受者に、朝鮮式の独創的で固有の農村文化を生み出す創造型の勤労者に育てるためには、彼らの住宅と職場の環境から一新させなければならないと強調した。

この日総書記は、なんとしても農村住宅の建設を推し進めなければならない、そうして全国の全ての山村と海辺の村、島村の住宅をはじめ農村住宅を三池淵市胞胎洞に建設した住宅水準に建設すべきである、そうすればわが国はそれこそ地上楽園になる、全ての市・郡が農村住宅を三池淵市胞胎洞の住宅水準に整えれば、農業勤労者が先に共産主義社会に入ることになるだろう、全国の全ての農村が社会主義文化農村に変わるその日を一日も早く早めなければならない、と述べた。

金正恩総書記は、2021年12月末に開かれた朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会でも、近い将来に全国の全ての農村を三池淵市農村の水準、裕福で文化的な社会主義の理想郷にしようというのがわが党の農村建設政策であると強調した。

その後、総書記は農村住宅の設計において地域別、地帯別の特性を生かす問題、住宅建設の順序を正しく定める問題、農村住宅の建設に必要なセメントを前もって供給する問題、各道・市・郡で強力な建設陣を整える問題をはじめ、農村住宅の建設で提起される方向と方途を明示し、その実現のための重大な措置も講じた。総書記が直接検討した農村住宅建設の設計案だけでも数千件に達する。

金正恩総書記の指導は、朝鮮の農村にいまだかつてなかった世紀的な変革をもたらした。山間地帯、中山間地帯、平野地帯を問わず、

各地の農村に近代的な農村住宅が建設され、新しい住宅を提供された農業勤労者が踊りながら新居入りをする喜ばしい光景が四季を通じて広がるようになった。

集計資料によると、新しい農村革命綱領が提示された後3年間、1500余の農村で8万余世帯の新しい住宅が完工して新居入りをし、各地で数多くの農村住宅が引き続き建てられている。2025年に建設された農村住宅はおよそ3万2000世帯を超える。結局、四年間に11万余世帯の農村住宅が建設されたのである。

全国各地のどの農村地域でも再び新居入りをしたという言葉があまりにも平凡に聞こえる中、赴戦郡門岩農場では一家親族が12の住宅利用許可証を受ける素晴らしい光景が繰り広げられた。父母兄弟など一家が2～3の住宅利用許可証を受けるのもありふれたこととなった。

一部の国々で農村住宅の価格は普通1平方メートル当たり数千ドルで、60余平方メートルの住宅を購買するには普通数十万ドルを支払わなければならないという。

ところが、11万余世帯だけでない全ての農民に、国では近代的な新しい住宅を建てて無償で提供しようとしている。

木が丈夫に育つには太い根より目によく見えない細根がより丈夫







でなければならず、目によく付かない山間奥地の農場、一番条件の不利な農場から住宅を建設しなければならないということ、そうして山間奥地から社会主義万歳の声が響き出るようにしようということである。

農村の変革は、農民により大きな社会的恩恵を施し、彼らが文化的な環境で幸せに暮らすようにさせようとする朝鮮労働党と共和国政府の終始一貫した政策の結果である。

現在、朝鮮の農村では地域別、地帯別の特性を生かした平屋、低層、多層、段々式住宅が次々と建設されており、農村は人民の理想郷として絶えず変貌している。

全国の農村で相次いで繰り広げられる新居入りの風景は、勤労する人民のための政策を絶えず打ち出し、人民の福祉のためには何も惜しまない朝鮮労働党の人民的性格の明確な証左である。

高まる機械音、豊饒な秋

変更された農作物の配置

金正恩総書記は、2021年9月に開かれた朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第5回会議で行った施政演説で、国の穀物の生産構造を改め、今後、稲作と小麦や大麦の栽培へ方向転換するという構想を示した。そのために、全国的に水稲と陸稲の栽培面積を増やし、小麦や大麦の作付面積を2倍以上増やすための対策を講じるよう強調した。

同年12月の朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会でも、総書記は国の穀物の生産構造を改めるという構想を再び明らかにした。

こうして農村では、2021年秋季から表作の小麦や大麦の作付面積を大々的に増やした。

当時まで農業部門では、基本作物として稲とトウモロコシを栽培していた。特に、平野より中間及び山間地帯の多い状況からして、

トウモロコシは食糧生産において大きな割合を占めていた。

しかし、穀物の生産量を画期的に増やし、人民の食生活をより文化的に改善しようとする金正恩総書記の構想と決心によって、朝鮮の農業部門は穀物の生産構造を大胆に改める変化の時期を迎えるようになった。

穀物の生産構造を改め、稲と小麦の栽培を強く推し進めるという党の新しい農業政策には、災害性異常気象の下でも穀物の生産を安定的に増大させうる科学的な方途がある。こうして、多くの農場で小麦をトウモロコシよりヘクタール当たり2トン以上増収し、さらには平均10トン以上の小麦を収穫する成果も収めた。

各農場の小麦の作柄が良くなるにつれ、その栽培面積は毎年増えている。

端的な例として、平安南道徳川市が挙げられる。ここでは、党の新しい農業政策が示されたときからわずか数年足らずのうちに、90





ヘクタールであった小麦の栽培面積を450余ヘクタールに増やした。

2024年には2023年に比べて、全国的に小麦の栽培面積が数万ヘクタールも増え、特にヘクタール当たり収量が飛躍的に高まった結果、収量6トン以上の農場が140余に増加した。

2025年には前年に比べて小麦栽培面積は3万余ヘクタールも増え、多収穫農場は664に増えたことをはじめ、数多くの多収穫作業班や多収穫分組、多収穫者が輩出した。

変化をもたらした科学農業

「建国以来初の……」「農場が生まれて初めて見る……」という言葉が全国の農村で響いたのが、ほかならぬ2024年である。

2024年には、2023年より全国的に数十万トンの穀物が増産され、穀物の生産目標は107％に超過達成された。多収穫農場、多収穫作業班は前年に比べて6倍以上増え、多収穫分組は11倍以上輩出する特記

すべき成果が収められた。

土地もその土地であり、空もその空であり、農作を営む人もそのままであった。われわれが豊かになり、強くなるのを望まない敵対勢力の策動はさらに悪らつさを極めており、災害性異常気象の影響も決して弱くなかった。

にもかかわらず、このような驚くべき成果が成し遂げられたところには秘訣がある。それは、われわれの農業が科学技術的土台の上に確固と引き上げられているからである。

金正恩総書記は、主要会議ごとに営農問題を討議するようにし、科学農業第一主義を一貫して掲げていく上で提起される問題とその実現方途を詳しく示した。総書記の指導の下に種子革命が強く推進され、不利な条件によく耐えながらも収量の高い優れた多収穫品種を開発・導入する活動で大きな進展が遂げられた。また、災害性異常気象に対処しうる科学的な営農システムを確立し、営農法を革新する上でも大きな前進が遂げられた。

農業部門で多くの営農資材と労働力を節約しながらも収量を高



められる営農法の導入に関する問題が党中央委員会総会の決定としてまで採択され、その貫徹のための取り組みが強く展開された結果、2024年に全国的な栄養冷床苗の導入面積は42%に及んだ。その年に栄養冷床苗を導入した水田では、ヘクタール当たり1トン以上増収した。

各地の農村で根覆い栽培方法、温室での育苗法、早期水田乾燥法をはじめさまざまな先進的営農法と種子被覆剤「豊年苗1」号、電気パルス水プロセッサー、フィトシンなど優れた農業科学技術製品が広く導入されて相応の結実につながった。

2024年に3万余回の集中講習、技術伝習、模範講習と、農業科学技術サービスシステム「ファングムヨルメ（黄金の実）」を通じた6800余件の問答サービスが行われた。

この過程で農業に対する指導方式が画期的に改善され、農業で主観主義、経験主義、敗北主義を排し、科学農業へ転換するための努力の中、自力でいくらでも多収穫を遂げられるという自信がついた。

2025年にも国の穀物生産量は持続的に増え、2024年に比べて多くの収量を記録した。

特に、2025年に32の多収穫郡と数多くの多収穫農場、多収穫作業班、多収穫分組が出現し、11の農場と約170の作業班でヘクタール当たり平均8トン以上の小麦生産実績を上げた。

増大する国家的投資

金正恩総書記は、党中央委員会第8期第4回総会で行った報告で、環境と条件にこだわらず農業部門に対する国家的投資を目的志向性をもって増大させることを、農業生産力を画期的に発展させるための重要な方途として提示した。

農村に対する国家的投資は、農業の自立的発展を目指している。

系統的に増える国家的投資は、国の灌漑システムの全般的な整備・補強ならびに完成、各種の肥料や効能の高い農薬の円滑な供給、近代的な電力設備と電気機械の十分な供給、新しい土地開墾と海面干拓に回されている。

総書記は、金星トラクター工場を馬力数の高いトラクターと高能率のさまざまな農業機械を生産できる総合的な工場として発展させるとともに、主要農業機械工場と農業機械研究部門に投資を集中して国の農業機械製作工業を完全に一新するのは党中央の構想であると明らかにし、その実現のための特別重大措置を取った。また、一番大きな農業道である黄海南道に力を集中することをことさら強調した。

2022年9月、総書記は、新製の5500台の農業機械を黄海南道の農場に贈る措置を講じた。

2022年11月初めには金星トラクター工場第1段階改造・近代化対象、2025年2月には第2段階改造・近代化対象の竣工式が行われ、多



くの近代的な農業機械が生産されて農村に供給されている。

2023年と2024年の両年間、4200余か所の灌漑施設が建設・復旧され、7000余か所の畑灌漑用揚水場が新しく建てられた。畑灌漑のための5900余キロの配管、ほぼ30キロの海岸防潮堤永久化工事が行われ、110余キロが補修されるなど、46万余ヘクタールの水田や畑に対する灌漑システムが完備された。

それだけでなく1万ヘクタールの畑が水田につくられ、3万余ヘクタールの水不足田と浸水田畑に灌漑システムが構築されることによって、ここだけでも毎年数万トンの穀物を増収できるようになった。



地方発展の新時代

山間文化都市のモデル—三池淵市

朝鮮の北部地域に位置している両江道三池淵市の大変革は、朝鮮人民が創造していく文明のレベルをよく示すものである。

三池淵市は、平均標高1300メートルの高山地帯に位置した山間都市である。

元来、市内の住宅のほとんどは平屋建てであった。このような平凡な山間都市が、従前の面影を見いだせないほど様変わりした。

ほぼ200棟の古い建物が跡形もなく消え去り、数百ヘクタールの敷地に建設された4000余世帯の2～3階建て、多層住宅が異彩を放っている。病院、文化会館、学生少年宮殿、体育館、科学技術図書館、ブルーベリー飲料工場、醤油・味噌工場、記念品工場など380余棟に及ぶ公共及び産業建築が新築された。

都市区画形成と建築において実用性と多様性、造形芸術化が高いレベルで実現された。

北部高山地帯の自然地理的特性にふさわしくさまざまな形態の特色ある建築が建てられ、住宅やサービス施設が調和よくつながって、建築間の芸術的相互性と互換性、連結性が新しく保たれている。道路施設と、スローガンや標語など直観宣伝物や電飾、そして都市の園林化、公園化も高い水準で実現している。

一言で言って三池淵市は、人民の理想が具現され、現代文明が凝



縮された山間文化都市の典型に変わった。

変貌を遂げた三池淵市を訪れた欧州の一企業家は、経済と文化が発展したという多くの国を見て回ったが、このように素晴らしい山間都市は初めてだ、さらに驚いたことは、このような建築がほかならぬ一般庶民のための住宅やサービス施設だということである、と言った。

このような現実は、金正恩総書記によってもたらされた。

三池淵市建設の構想を示した総書記は、幹部と建設者が改築・補修という観点から脱せられずにいるとき、どうせ力を入れるからには完全に新しく建設しようとし、三池淵市の建設で指針とすべき問題を明らかにした。建設が盛んに進められていた日々には数回にわたって建設現場を視察したが、その回数は2018年に3回、2019年には2回である。

2019年12月、三池淵郡邑地区（当時）の竣工式が、総書記の出席の下に盛大に行われた。

それ以来、三池淵市の様相は不断に一新されている。白頭山密営洞、鯉明水洞、無頭峰洞、胞胎洞、小白山里、宝西里など三池淵市の10余りの洞・里に数千世帯の住宅と公共及び生産用建築、教育施設、上下水道系統、道路と園林・緑化、送電線系統が建設され、市の周辺地区と農場が一新された。

2021年11月についで2024年7月に再び、山間文化都市の標準、モデル地方都市に様変わりした三池淵市を現地で指導した総書記は、日増しに高まる今日の現実的要求に照らして三池淵市をより新しくかつ革新的な文明都市に一新するための重要課題を打ち出した。

総書記は、三池淵市をわが国の北部山間都市の典型、特色のある複合型山岳観光地区、四季山岳観光地区として開発し、人民の文化的要求を最高のレベルで充足させ、国際観光も活性化する構想を述べた。続けて、天然森林と山岳を成している白頭山一帯の大自然は世界に誇るに足るわれわれの貴重な資源である、世界的な名山である白頭山観光文化地区を立派に打ち建ててわが人民と世界各国の人々が好んで訪ねる所にし、観光業が地方発展の主要動力となるようにしなければならない、と言った。

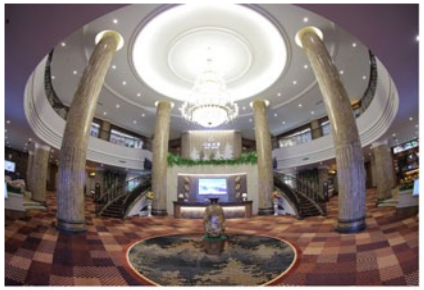
総書記は、山地の面積が全領土の80％を占めるわが国の自然地理的特性に即して、山岳観光業を将来性のある産業と見なして発展させるべきであるとし、これと共に自然及び環境保護のための法律的・制度的メカニズムを完備することも重要であると強調した。

2025年12月、三池淵市ではイカルホテル、ミルヨンホテル、ソベクスホテル、ポッナムホテル、チョンボンホテルの竣工式が行われた。それらのホテルは、白頭山から北胞胎山、南胞胎山を含む大規模観光地区の出現を予告する意義深い創造物だと言える。

人民の幸福と祖国の富強・繁栄のために幾多の草分けの道を踏み分け、尽きない思索を重ね、心血と精力を惜しみなく注ぎ込み、日ごとに興隆・繁栄する新世界を絶えず構想して実現する総書記の卓越かつ洗練された指導によって、三池淵市は近い将来、朝鮮北部山間都市の典型に、特色のある複合型山岳観光地区、四季山岳観光地区に変わるだろう。























「地方発展20×10政策」

2024年初めに新しく打ち出された「地方発展20×10政策」は、全国の人民の歓喜と感激の中で積極的に推進されている。

この政策は、毎年20の郡ずつ近代的な地方工業工場の建設を政策的課題として必ず実行し、10年内に全国の各市・郡、即ち全国人民の物質・文化生活水準を一段と飛躍させることである。

地方発展に関する元々の計画には、地方工業工場の建設を条件の有利な幾つかの市・郡で行い、その他の市・郡では今後の建設を準備することとなっていた。しかし、金正恩総書記はこのような消極的な態度を断固と排撃した。

2020年10月、建設中の江原道金化郡被害復旧現場を現地で指導した総書記は、金化郡の変貌にふさわしく、地方産業工場も年次別に近代的に改築し、生産も活性化して郡の経済生活を改善し、人民の物質・文化水準を絶えず高めるための活動も行うべきだと強調した。

翌年の3月に開かれた第1回市・郡党責任書記講習会では、まず金化郡の地方産業工場をモデルケースとして近代的に建設し、自己の実情に合わせて運営を正常化する経験を創造しながらその効率と実利、可能性を検討した後、それに基づいて全国の各市・郡に近代的な地方工業工場をもれなく新設することによって、地方人民の基本的な物質・文化生活の向上を図り、新しい地方発展期を開くという具体的な方向を提示した。

総書記は、2024年1月15日に開かれた朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第10回会議で行った施政演説で、現段階において人民生活を向上させるための重要な問題は、首都と地方の格差、地域間の不均衡を克服することだとし、地方によって地理的環境と資源、経済的潜在力と生活環境では違いがあっても、共和国領域には人民生活の面で立ち後れた地域があってはいけないと述べた。そして、地方工業発展を強力に推し進め、できるだけ短期間内に全国的規模で地方人民の物質・文化生活水準を一段と引き上げようとする朝鮮労働党の政策を**「地方発展20×10政策」**と命名し、それを強力に推進するつもりだとし、この重大な事案を党中央委員会政治局に提議して政策化する決心を披歴した。

数日後に開かれた朝鮮労働党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議では、地方経済の確実かつ急速な発展を実現し、国家の全面的興隆に大きな力を与える「地方発展20×10政策」を強く推し進めるという決定書が全会一致で採択された。

2024年2月初め、金化郡地方工業工場を現地で指導した総書記は、新しく建設される地方工業工場は金化郡の工場よりも近代化水準が高く、建築様式の面でより素晴らしく建設すべきであると強調した。

現在朝鮮では、国家の主権死守と人民の安寧保障のための自衛的力を絶えず高度化しつつ、経済の各部門を整備し、その発展を図ると同時に、首都はもちろん全国の農村で毎年かつてなく膨大でスケールの大きい住宅建設が推し進められている。これに加えて、全国地方工業の新しい発展局面を開く今一つの壮大な事業を展開するということは、普通の決断では立てられない雄大な構想である。

総書記はここ数年間、大規模の仲坪温室農場と連浦温室農場、江東総合温室農場を建設し、農村で新居入りの慶事が相次ぐようにしたのをはじめ、地方人民の生活改善のための壮大な活動を展開した。

にもかかわらず、総書記は地方人民の生活を向上させるためには、それだけでは不十分だと考えた。人民の生活で実際の改善をもたらすためには、党と国家が重い荷をもっと担わなければならず、条件と環境が整うのを待つことはできないというのが、総書記の揺るぎない意志であった。

2024年2月末、「地方発展20×10政策」実行の初の鍬入れをする儀式が国の代表的な中山間地帯である平安南道成川郡で行われた。

着工式に出席した総書記は演説で、今は敷地しかないここで設計図だけを広げて行う集会ではあるが、地方の人民の福祉増進を目指した重大な革命事業の開始を宣言することだけでもその歴史的重みは十分だと述べた。そして、この地に生まれた人なら、首都や地方、都市や山村を問わず、どこに住んでいようとも等しく国家の社会主義的施策の下で裕福かつ文化的な生活を享受すべきであり、また必ずそれを実現しようというのが新しい地方発展政策の核だと強調した。

総書記が着工の鍬入れをした成川郡地方工業工場の建設着工式の後、それに次いで19の市・郡でも地方工業工場の建設着工式が行われた。

それ以来、朝鮮では「地方発展20×10政策」の実行が強く推進された。この日々、総書記は、地方発展政策の成功的推進と地方の変革的発展のための方略を提示し、その実行のための積極的な措置を取った協議会を現地で開き、咸鏡南道咸州郡と平安北道、黄海南道載寧郡などの地方工業工場の建設を精力的に指導した。

総書記の献身的な指導により、最初の着工式から290余日ぶりに、成川郡に地域的特性に合致し、生産のオートメ化、科学化が高いレベルで実現した近代的な地方工業工場が完工した。

2024年12月20日、総書記の出席の下に成川郡地方工業工場の竣工式が盛大に行われた。それらの竣工式は、2025年の開始とともに他







の市・郡でも相次いで行われた。

2025年に入ってもまた、他の20の市・郡で新時代の地方発展政策を実行するための地方工業工場の建設着工式が相次いで行われ、着工の当年に竣工式が行われる成果が収められた。

「富者市」の将来を広げたテント協議会

2024年に咸鏡南道新浦市の海岸の砂場では、朝鮮労働党の歴史上重要な意義を持つテント協議会が行われた。

咸鏡南道新浦市は、過去高い漁獲高で全国に知られ、一時興っていた地方である。ところが、いろいろな要因で海洋資源が減った上に、元々土地が痩せていたため、市の経済力は日増しに衰え、人民生活においても少なからぬ支障を来たしていた。

このようなとき、新浦市の発展で画期的な転換の契機をもたらす重大な措置が取られた。

海を控えた市・郡が海洋資源を最大限効果的に利用し、地方がそれぞれの条件に合わせて特色のある発展を遂げられるモデルづくりを党中央委員会が直接掌握して推し進めるという総書記の特別指示に従って、2024年に典型的な海岸地域であり、住民数に比べて耕地面積の少ない新浦市がそのモデル単位として定められ、その準備活動が進められるようになった。

2024年7月15日、咸鏡南道新浦市豊漁洞地区に出向いた総書記は、浅海養殖事業所の敷地を見て回って活動計画などを検討し、現地のテントで関係者の協議会を招集した。

協議会では、新浦市浅海養殖事業所を浅海養殖業の新しいモデルケースとして立派に整え、それを一般化させて、海を控えた市・郡の経済発展と人民生活向上で実質的な改善をもたらし、党の地方発展政策をより強く推進させるための問題が討議された。

総書記は、地方発展の世紀的変革を成功裏に遂行する上で海岸沿

線地域の市・郡が海の経済的潜在力と資源を効果的に開発・利用することが持つ重要性と意義について分析し、その解決への実践的課題と方途を示した。

そして、各地方と地域が自立的かつ持続的な発展土台を構築し、全ての地域に均衡的かつ競争的な発展雰囲気を助長してこそ地方経済が発展し、地方経済が発展するほど経済全般に大きな原動力がもたらされ、戦略的な経済力の成長に資するようになると述べた。

協議会では、新浦市浅海養殖事業所の経済的収益と効率についての資料報告を聴取した。

総書記は、豊漁洞地区の沖合い水域でホタテガイとコンブの養殖を上手に行うと、土地が痩せ、経済力の弱い新浦市が3～4年後には共和国の市・郡の中で一番豊かに暮らす「富者市」になることができるとし、新浦市浅海養殖事業所を新世紀の養殖業のモデルケースの実体として立派に建設して新浦市の人民に贈る決心を披歴した。

総書記は、新浦市浅海養殖事業所の建設を人民軍部隊に委任した。

協議会では、各市・郡の責任幹部が地元の自然地理的特性と経済的潜在力を全面的に調査し、最大限効果的に利用するための研究や仕事の手配を緻密に行う問題、地域経済発展を目指す特恵措置が効を奏するように法律的・制度的メカニズムを完備する問題、各市・郡で中核技術者と技能工の育成に力を入れる問題など、実務的な課題が具体的に示され、しかるべき対策が講じられた。

新浦市浅海養殖事業所の建設に動員された軍人建設者は、わずか数か月の間に朝鮮東海岸に素晴らしい変革を起こし、その間、養殖事業所では生産増大のための確実な科学技術的保証をもたらした。

2024年12月末、新浦市浅海養殖事業所の竣工式に出席して竣工テープを切った総書記は、演説で、わが国は海岸線が長くて海を

控えた市・郡が少なくない、わが国の海は清くて生態条件がとてもよい、この有利な条件を活用して海岸地域で海面養魚と養殖を大々的に行うべきである、と述べた。そして、長い歳月屈指の漁場都市として有名だった新浦市で大規模養殖の新しい経験が創造されたのは、これから浅海養殖を主たる分野にして国の水産業を発展させていけるという信念を与えるものだと言明した。

東西の二面が海に接している朝鮮の自然地理的特性に即して、海



岸沿線地域の市・郡が水産業を発展させて地方経済の自立的土台を強め、地域住民の物質生活を向上させるという朝鮮労働党の地方発展政策と党中央委員会第8期第11回総会の決定に従い、楽園郡でも先進的な浅海養殖事業所の建設が展開された。

2025年2月、咸鏡南道楽園郡では、浅海養殖を主たる領域にして

国の水産業を立て直し、地方経済と人民生活向上の物質的基礎を根本的に固めるためのより発展志向的な目標の下に、先進的で地域の実情に合う浅海養殖事業所建設の着工式が行われた。自ら楽園郡浅海養殖事業所の敷地を定めた金正恩総書記は、ここに近代的な浅海養殖事業所を建設すると同時に、海岸地帯の特性が生かされるように住宅まで立派に打ち建てることにより、世界で一番素晴らしい漁村を楽園郡に贈りたいと思う、今後この漁村を**「楽園浦」**と呼ぶのが良かろう、とうれしそうに言った。

この日、総書記は着工を記念して鍬入れをした。

楽園郡で盛大に行われた近代的な浅海養殖事業所と漁村建設の着工式により、全国の全ての市・郡を自立的かつ多角的に発展した文化的で裕福な暮らしよい所に変貌させようとする朝鮮労働党の確固たる意志と崇高な理想、雄大な抱負を抱き、富強な未来を目指して絶え間なく飛躍する朝鮮の気象が力強く誇示された。

2025年8月30日、楽園郡浅海養殖事業所と漁村文化住宅地区が立派に建設されて盛大な竣工式が行われた。

金正恩総書記は自らテープカットを行い、楽園郡浅海養殖事業所を見て回った後、新しい住宅を割り当てられて喜びに満ちている勤



労者たちの家庭を訪ねた。

先進的な生産施設及び加工工程を備えた特色のある水産物生産拠点と、山の起伏に沿って周辺の自然風致と調和を成しながらも、利便性と美学性、造形芸術性において独特さを誇る数百世帯の漁村文化住宅が立ち並んだ楽園浦は、社会主義楽園とは果たしてどんなものなのかというイメージをはっきりさせ、新時代の地方発展政策によってもたらされる先進的な発展ぶりと人民の幸福な姿を鮮明に描き出した変革の実体であると言える。

楽園浦の竣工は、2年足らずの短期間の道程を経た朝鮮労働党の地方発展政策が、全国的規模で人民の基本的な生活上の需要を充足させることからより根本的かつ全面的な領域で確実な変革を遂げる段階へと確信を持って移行していることを実証した。

砂場ばかりだった土地が、幸せの楽園を誇る理想的な文化魚村に様変わりする驚くべき奇跡が創造されたのは、わずか190余日ぶりであった。この驚異的な発展速度は、人も山河も見違えるほど変化する社会主義朝鮮の今日を代表するとともに、限りなく隆盛・繁栄するわが国家の未来を見せる誇らしい縮図である。













追加された3大必須対象の建設

全国の人民により文化的な生活条件と環境を提供しようとする金正恩総書記のたゆみない思索と献身により、地方に実際的で新しい質的な変化がもたらされ、文明・富強の国家建設が力強く推し進められている。

2024年8月、総書記は地方の画期的な発展と全面的な富強を早めるための新しい重大措置を講じた。

総書記は、地方経済の発展と人民生活の改善において明確な変化をもたらすための「地方発展20×10政策」を確実に実行するために、推進中の地方工業工場の建設と同時に、保健医療施設と科学技術普及拠点、穀物管理施設の建設を並行させることによって地方の発展を一層早めるという新しい方向を提示した。

数日後、現地の平凡なテントで地方発展事業協議会を招集した総書記は、先進的な市・郡病院と科学技術普及拠点、穀物管理施設を建設する上で堅持すべき諸般の原則を明らかにした。

地方人民の物質・文化生活の向上を実質的に図り、地方発展の効率を画期的に高めるためには、新時代の地方発展政策が軽工業部門の工場建設にのみ限られず、保健医療と科学、教育を含む包括的な政策とならなければならないというのが総書記の意図であった。

この日総書記は、特に相対的に脆弱な地方の保健医療実態を改善し、地方人民の生命安全と健康増進に大きく寄与する市・郡病院の建設は、自分の第一の宿願事業であると強調した。

総書記は2024年9月9日、朝鮮民主主義人民共和国創建76周年に際して行った綱領的な演説**『偉大なわが国家の隆盛・繁栄のために一層奮闘しよう』**で、すでに追加対象と指定されている科学技術普及中心を近代的な情報技術手段を備えた科学技術普及拠点、さらには

映画も鑑賞し、スポーツ文化生活も享受し、商業網やその他各種の便益施設まで含まれた多機能化された総合サービス所として建設することを明らかにした。

総書記の心の中にはいつも地方の人民が大切なものとして宿っており、地方の長年にわたる後進性に終止符を打ち、地方発展の歴史的偉業を成し遂げるのは総書記の最大の宿願事業である。それゆえ総書記は、党中央委員会第8期第11回総会で、地方人民がその恩恵を多く受ける先進的な保健医療施設と科学教育及び生活文化施設、穀物管理施設の建設を新しい地方発展政策に含めるという特段の措置を取り、実行対策をはっきりと明示したのである。

2025年2月初め、「地方発展20×10政策」江東郡病院と総合サービス所の着工式に出席した総書記は、2025年度の建設事業が今日の江東郡病院と総合サービス所の着工式から始まるとし、人民の権益と健康増進を保証し、より明るくて豊かな未来を建設しようとする党と政府の理想と抱負においてはまだ始まりに過ぎないと言えるが、この国の貴い生命と幸せな生活の躍動のために長年熟慮してきた対象建設がとうとう実行段階に移る時刻を迎えると、われわれが実に貴く張り合いのある仕事を決断し、準備してきたという思いで胸がいっぱいだと述べた。そして、今日のこの歴史的な着工式を通じて、全国の人民に自分の住む地域でも先進的な医療サービスを受け、文明開化した物質・文化生活を享受するようになるという希望と楽観を抱かせ、地方の実際的で新たな質的変化によって、文明・富強の国家建設を加速化する意味深い出発を切ることになったと言明した。

江東郡病院と総合サービス所の着工式の後、竜岡郡と亀城市など各地域で病院と総合サービス所、穀物管理所の着工式が続々と行われた。

2025年にモデルをつくって経験を蓄積した。2026年からは毎年20の市・郡で地方工業工場と並行して追加された3大必須対象の建設も同時に進めるのが朝鮮労働党の構想である。

社会主義建設の全面的発展

2023年末に開かれた朝鮮労働党中央委員会第8期第9回総会では、わが党と人民がそれまで3年間の頑強な闘争を通じて、国家経済発展の基盤を強固にし、持続的に発展させることを目的とした5カ年計画を十分に完遂できるという確信を持つようになり、党大会の示した課題を実行するための闘争で最も厳しい困難、極限点を突破したと確実に自負することができると強調された。また、朝鮮革命が党中央委員会第8期に入って、社会主義の全面的発展の時代を切り開いたと誇り高く宣言した。

以下に列挙した数字と事実がそれを実証している。

2023年に朝鮮人民は、社会主義建設の各分野で力強い前進を遂げた。

穀物は103%、電力、石炭、窒素肥料は100%、圧延鋼材は102%、非鉄金属は131%、原木は109%、セメントや一般織物は101%、水産物は105%、鉄道の貨物輸送量は106%、住宅は建設中の世帯数が109%で、人民経済発展12の目標を全て達成し、電動機は220%、変圧器は208%、ベアリングは121%、電気亜鉛は140%、鉛は121%、紙は113%、塩は110%、化粧品は109%、板ガラスは100%、マグネシアクリンカーは104%に増産したのをはじめ、経済全般で著しい生産増大が成し遂げられた。

2023年度の経済部門の総体的な成長規模は、第8回党大会以前の2020年に比べて三和鉄は3.5倍、銑鉄は2.7倍、圧延鋼材は1.9倍、工作機械は5.1倍、セメントは1.4倍、窒素肥料は1.3倍に重要指標の生産量がはるかに増大し、国内総生産高は1.4倍に増えた。

このような注目に値する成果は2024年にも達成され、国家経済全般がはっきりした成長推移を示していることが実証された。

党中央委員会第8期第11回総会によると、2024年に圧延鋼材は127%、非鉄金属は106%、窒素肥料は103%、電力は101%、石炭は110%、セメントは101%、原木は104%、水産物は101%、鉄道の貨物輸送量は108%、織物は101%、穀物は107%で、住宅建設を含む人民経済発展12の重要目標が成功裏に達成された。

2023年だけを見ても、光川養鶏工場が家禽部門の近代化の標準、モデルとして建てられ、沙里院市と海州市、南浦市に近代的な小麦加工工場が整えられたし、黄州キンドン水路工事と康翎湖淡水化工事、数千ヘクタールに達する干拓地の地区外建設が完工され、30万ヘクタールの海面干拓目標達成のための強固な土台が築かれた。

竜城機械連合企業所で大型コンプレッサーを遜色なく製作し、金策製鉄連合企業所の省エネ型酸素熱法溶鉱炉の建設と1万5000㎥/h酸素分離機の据付工事、黄海製鉄連合企業所の誘導炉据付工事と清津製鋼所の垂直式酸化焙焼球団鉱炉の建設、殷栗鉱山西海里分鉱山の開発が完了して操業することで、2023年は金属工業部門の主体化、近代化の実現において大きな飛躍を遂げた年となった。

2024年にも金星トラクター工場の第2段階改造・近代化工事と黄海製鉄連合企業所の省エネ型酸素熱法溶鉱炉の建設をはじめとする整備・補強対象の工事が成功裏に推し進められ、農業部門で灌漑建設及び還元復旧第2段階工事が4月まで全部完了した結果、農業生産の物質的土台が一層強化されるなど、多大な成果が成し遂げられた。

文化分野においても朝鮮を人材の多い国、教育の国にするための新世紀の教育革命が力強く推進され、平壌総合病院が完工段階に入るなど保健医療部門の物質的・技術的土台が強化され、国際スポーツ競技で成果を達成するなど、新しい前進が成し遂げられた。

建設が活発に進められて、首都ばかりではなく地方も同時に様変わりしている。

首都平壌で毎年1万世帯の住宅が建設されていることはよく知られた事実である。これと同時に、2022年から全国の農村を近代的に改造する事業が大々的に繰り広げられている。検徳地区にも数万世帯の住宅が建設されて新しい山岳峡谷都市、鉱山都市がその姿を現した。全国を同時的・均衡的・飛躍的に発展させるために「地方発展20×10政策」が提示され、毎年20の郡ずつ10年間に全国の地方工業工場を近代的に建設する事業が強く推進されている。

都市と村、山河だけでなく、人々の思想精神面においても大きな変化が起こっている。

全人民の愛国的熱意が非常に高まり、大衆的な愛国運動が広く繰り広げられている。愛国炭増産運動、愛国肥料増産運動など生産を増大させるための運動だけではなく、重要建設場への支援も大衆的に展開され、特に青年が社会主義建設の骨の折れる部門に積極的に志願した。資料によれば、その数は2023年におよそ10万余人に及んだという。

2025年12月に行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第13回総会では、さまざまな挑戦と障害が重なった中でも人民経済の主要工業部門がねばり強い増産・節約運動を展開して高く立てられた生産計画をしっかり遂行し、農業部門でも2024年に比べてより多くの穀物を生産し、多くの重要建設を立派に完工することによって、2025年の経済発展目標とともに5カ年計画が完遂されたと誇り高く総括された。

また、人民経済の主要部門の近代化と技術インフラの補強が完成段階に入ったことで、次の段階の展望目標遂行により確信をもって進入できる可能性と保証がもたらされたと総括された。特に、より拡大・進歩した地方発展政策対象を年内に着工し、完工して人民の理想と福祉の実現で自負できる結果を出し、わが国家の同時発展の様相が遺憾なく誇示されたことが重要な成果として強調された。

総会では、西海岸の干拓地農場の中で新設または一番立ち後れた農場を近代的かつ文化的な農場に変える革命的措置を講じようとする党中央の意図と、国家的に炭鉱村を変革するための新しい戦域をもう一つ追加的に展開するという課題が提示された。

朝鮮労働党中央委員会第8期第13回総会は、全面的興隆の偉大な開拓期に昇華させてきたこの5年間に対する大きな自負と誇りを抱いて、果敢で攻勢的な闘争気勢に一層拍車をかけて新たな発展に向けて邁進するよう全国人民を力強く鼓舞・激励した。

3.今日を通じて見る明日

この5年間、朝鮮人民は敬愛する金正恩総書記の周りに一致団結して英雄的に闘うことによって、社会主義全面的発展の時代を切り開き、非常に急速でより高い段階への発展を目指して力強く邁進している。

今日の現実は明日を見通せる窓とも言える。

朝鮮労働党中央委員会第9期の期間、今一度飛躍的な変貌が遂げられるわが国家の姿を、今日の躍動する現実から思い描くことができるだろう。



一編の歌が与える余韻

2024年に歌謡『親しい父』がSNSを通じて急速に広がり、世界的に大きな反響を呼んだ。

母の懐のように温かく、父の懐のように慈愛深い懐、膝元の全人民を懐に抱き、情を注いで見守る金正恩総書記を朝鮮人民は親しい慈父として信じて従うと謳ったこの歌が世人の感動を呼び起こしたのはなぜだろうか。

この歌を聴いた世界の多くの人々は「自分の指導者に対する朝鮮人の誇りと自負を認識させる素晴らしい歌だ」「金正恩指導者の指導の下に朝鮮は以前には見られなかった巨大で神秘な発展力を持って前進している。今後、朝鮮が何を建設するのか、どんな歌をつくるのか、何を開発するのか、とうてい予想できない。一言でいって、朝鮮は速く変貌している」「本当に驚いた。朝鮮に行きたがらせる歌である」と言った。

一部のインターネットユーザーは、「この歌を聴くと、おのずと朝鮮に移住したくなる」と語った。

世界の人々は、一国を導く指導者の懐を母の懐、父の懐と見なして暮らす人民はこの惑星に朝鮮人民しかいないと口をそろえて言っている。

それは当然のことである。

金正恩総書記は、子どもたちに会うと彼らの囁きまで聞いてくれ、工場を訪ねると生産の実態を確かめる前に労働者たちの生活条件からまず確かめ、被災地の住民を訪ねてまだ大水が引いていない泥道を真っ先にかき分け、丸太を積み上げて臨時に支えた危険極まりない鉄橋にためらうことなく列車を走らせた。

いかなる修辞学的な言語ではなく、毎日、毎時の朝鮮人民の生活感情をそのまま反映した歌謡『親しい父』は、世人をして朝鮮の現実を深い関心をもって透視するようにさせている。

「地方発展20×10政策」の実現のための初の着工式に出席するために成川郡に出向いた総書記が**「愛する成川郡民の皆さん、お元気ですか」**と深い情をこめてあいさつをしたときにも、新築の住宅の竣工式に参加してテープカットを行い、勤労者たちの新居入りを祝福するときにも、水害現場でヘリコプターが連続的な往復飛行をしながら住民たちを救出する姿を全期間見守り、戦闘を直接指揮したときにも、人民は誰もが、自分たちに慈父の温かい手が差し伸べられていることを感じた。このような感情が歌謡『親しい父』を生んだのである。

立派な名曲は説明がなくても人々の琴線に触れるものである。

この歌を聴いた世界の多くの人々は、朝鮮の現実に好感を表し、慈父の懐に抱かれて暮らす朝鮮人民の幸せな人生を羨んでいる。

人民を限りなく愛する総書記の偉人的品格を一層深く感じさせる歌謡『親しい父』は、世人に人民的指導者とはどんな方であるのかをよく認識させている。世人はまた、親しい慈父が人民にもたらした幸せな生活について心から共感している。朝鮮人民は、親しい慈父を国の指導者として戴いているがゆえに、今後も永遠なる幸福を享受できると確信している。

新しい住宅の主人たち

首都平壌の普通門周辺の川岸地区に高級住宅区が建てられ、「瓊楼洞」と名付けられた普通江川岸段々式住宅区の800世帯の住宅は、ほかならぬ首都の模範的な勤労者たちに割り当てられた。

彼らはみな国家のために献身している各部門の労働革新者、功労者、科学者、教育者、文筆家であった。

他国でなら金持ちのみが住める高級住宅を割り当てられた人々の中には、リョンモットロリーバス事業所の運転手であるホ・ミョングムもいる。

彼女は中学校を卒業し、数十年間をトロリーバスの運転手として働いてきたこの国のどこでも見られる平凡な女性勤労者である。彼女の夫であるチェ・ホンギも同じトロリーバスの交替運転手である。当時まで彼ら夫婦が走った走行距離はほぼ200万キロに達した。

ホ・ミョングムはトロリーバスの運転手という職業を愛した。首都市民の交通上の便宜を図る運転手という大きな自負が自分の職業をさらに愛するようにしたのである。彼女は雨の日も雪の日も、平壌駅―リョンモッ洞路線を休むことなく走った。

しかし、彼女にも困難な時があった。1990年代末、敵対勢力のかつてない対朝鮮敵視政策と圧殺策動、高強度の制裁と相次ぐ自然災害などで国が「苦難の行軍」を余儀なくされていた時期であった。当時はトロリーバスも運行を満足にできなかった。それでも彼女は、トロリーバスを離れなかった。彼女にとってトロリーバス事業所は、国が自分に任せたなじみ深い職場であり、トロリーバス運転手は、国が自分に与えた職分であったのである。それゆえ、初心をさらに固め、与えられた任務をより忠実に果たすために努力した。

実際、女性の身で30年間も、それも同じ職種で働くというのは言うほどに易しいことではなかった。しかし、毎日トロリーバスを利用する人々の明るい顔を見ながら、日ごとに変貌している市街の新しい姿を見ながら、彼女は自分の職業に対する自負と誇りを強く感じた。かげひなたなく黙々と自分の持ち場を守り、無事故運行に誠実な努力を傾けてきた女性運転手の清らかな良心と私心のない愛国心は万人の感動を呼び起こした。

2015年7月19日、その日は日曜日で、道・市・郡人民会議代議員選挙が行われた。

平壌市人民会議代議員選挙のための第107号区第102号分区の平壌市人民会議代議員候補はリョンモットロリーバス事業所の運転手ホ・ミョングムであった。ホ・ミョングムは、平凡な運転手である自分が平壌市人民会議代議員候補に推薦されたことだけでもありがたいことなのに、一国の国家元首が自ら選挙区に出て投票するとは夢にも思わなかった。

投票当日、選挙場に出向いた金正恩総書記は、代議員候補に推薦されたホ・ミョングムを祝い、娘時代から30年間をトロリーバス運転手として働いているとのことですが、一つの職種で長い間よく働いた、あなたは人民の代表として人民の期待に背くことなく、社会主義のわが国を人民の楽園に築くために職務に一層励まなければならない、と激励した。

選挙委員会委員長から選挙票を受け取り、平壌市人民会議代議員候補ホ・ミョングムに賛成投票した総書記は、今後、人民のためにより多くの仕事をすることを望む、と重ねて信頼を寄せた。

まさにこのような女性勤労者に、国家は誰もが羨む高級住宅を割り当てたのである。

全人民がそのような素晴らしい住宅で暮らせるようにすることが朝鮮労働党の構想である。瓊楼洞の高級住宅に劣らない楽園郡浅海養殖事業所の漁村文化住宅地区にその事業所の従業員が住み、全国各地に建てられている農村住宅の住人もほかならぬ農民である。首都に建てられた近代的な住宅にも労働者、事務員が一文の金もかけずに入居している。

閲兵式を通じて見た自衛的国防力

人民の楽園は決して、おのずと築かれるものではない。特に、敵対勢力の恒常的な軍事的威嚇の中にある朝鮮の実情で、平和的発展の環境を保障するためには強力な国防力が必要である。

国防力を誇示する主要契機が閲兵式であるとしたら、朝鮮の閲兵式は単なる軍事力の示威だけではない一つの大政治祝典だと言える。閲兵式を通じて、一心団結の朝鮮の姿、いかなる挑戦と難関にも屈せず、より明るい未来に向けて前進する揺るぎない意志が表明されるのである。

新生朝鮮の荘厳な姿を誇示した1948年2月8日の正規的革命武力である朝鮮人民軍の初の閲兵式があったときから今まで数十回もの閲兵式が行われた。

その中でも、金正恩総書記の直接の指導の下にこの10余年間に挙行された閲兵式は20余回に達する。特に、2020年10月10日に初めて行われた深夜閲兵式は世界を驚嘆させた。

世界のメディアと専門家は、朝鮮の閲兵式が真夜中に行われたことについて、前例のない深夜閲兵式、人々の目を見張らせる吃驚閲兵式だと驚嘆と感動を禁じえず、いろいろと分析・評価した。その中には、朝鮮が閲兵式を夜間に行ったのは、難関を必ず克服するという金正恩総書記の意志と胆力、度胸を示し、朝鮮労働党の光が闇をついて輝くという暗示的な内容を盛り込んでいるという分析もあった。

それ以来の深夜閲兵式は、その規模と形式、内容において新しくて特色のある閲兵式として不断に更新された。

2022年4月25日の朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式は、世界に大きな衝撃を与えた。

金正恩総書記は、朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式をこの世にまたとない閲兵式にするため、その準備段階から精力的な指導を行った。

女性たちが5角の赤星隊形をつくって幹部壇の下まで入場し、その中から儀仗兵たちが共和国旗を掲げて出る特色のある場面も、空挺兵たちの夜間集団降下技巧も総書記の指導の下に生まれたものである。

夜間に12人の空挺兵たちが金日成広場の4500メートルの上空から秒当たり50メートルの速度で降下技巧を披露する素晴らしさの極致を見せたのは、世界的に朝鮮が初めて成功させたものだと専門家たちは一致して評している。

総書記は、不夜城をなした広場が瞬間的に暗くなって人々を緊張させる暗転、瞬く間に観客の視線を引くスポットライト、心臓の拍動を倍加させるリズム波状式照明、色とりどりの鮮やかでまぶしい光を放つ閃光照明などの多様な夜間照明効果を活用するよう具体的に指導した。

以前とは異なって、前線軍団縦隊と海軍、空軍、戦略軍、特殊作戦軍縦隊の先頭で大連合部隊の軍旗と共に管下部隊の軍旗を掲げた場面もまた初めての独特なものであった。

LED照明が装着された戦闘機編隊が火花を噴き出しながら難度の高い超低空飛行で金日成広場の上空を通過したのをはじめ、難しい技巧をいささかの遜色もなく立派に遂行したのも外国の閲兵式では見られない珍しい場面であった。

総書記は、閲兵飛行縦隊がチュチェ思想塔を過ぎてすぐ高度を下げ、大同江対岸の上空から機首を上げながら扇の骨の形に分かれると大変特色のあるものになるだろうとし、一度大胆にやってみるべきだ、と自信を抱かせた。

20機の戦闘飛行機と5機のヘリコプターが5角の星隊形をつくって広場の上空を飛びながら赤い祝砲弾を炸裂させる姿もまた恍惚かつ神秘な壮観であった。

閲兵飛行があまりにも素敵だったので、この場面を見た外国の数多くのインターネットユーザーは、朝鮮の航空兵たちにワールドチャン

ピオンの資格を与えるべきだというコメントをわれ先に載せた。

総書記は先端武力装備の威力示威にも深い関心を払い、わが国家の絶対的力の真価を世界にはっきりと見せられるように、縦隊の編成に至るまで具体的に指導した。

世界のメディアが史上初の閲兵式だと賛嘆してやまなかった朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式は、金正恩総書記の非凡な英知と優れた指導によって、世界の閲兵式の歴史に歴々と記録される創造的な閲兵式となった。

それから3年後の2025年に行われた朝鮮労働党創立80周年慶祝閲兵式を通じて、世界は朝鮮民主主義人民共和国武力の急速な発展ぶりを改めて目にすることができた。

恍惚たる照明の中に地軸を揺るがしながら歩武堂々と行進する精鋭部隊の姿もそうだったが、強大な攻撃力と信頼性のある防護システムを備えた現代式主力戦車と600ミリロケット砲、長距離戦略巡航ミサイル、無人機発射台車、地対空・地対地ミサイル、極超音速滑空ミサイルと極超音速中長距離戦略ミサイル縦隊、最強の核戦略兵器システムである大陸間弾道ミサイル「火星砲—20」型縦隊の威容は、朝鮮労働党の自衛国防建設路線の正当性と生命力を遺憾なく実証した。

金正恩総書記の指導の下に行われた全ての閲兵式は、国家の主権守護と発展利益、子孫万代の強盛と繁栄を目指す朝鮮人民の前進を阻む力はどこにもないということを全世界に誇示した。

日ごとに若返る平壌

2025年2月16日、首都平壌の和盛地区ではそれまで4年間に間違いなく行われた1万世帯住宅建設の着工式が再び行われた。2025年の1万世帯住宅建設によって、朝鮮労働党第8回大会以後、強力に実行されてきた平壌市5万世帯住宅建設はついに完成段階に入った。

顧みるに、この5年間、毎年さらに壮大かつ華麗な都市に変化した平壌の姿は、大きな変革の転機を迎えた全国の人民に百倍の自信と発奮力を与えた。

この期間、国の状況が依然として困難な中でも平壌市の住宅建設部門は、党大会で決定された目標だけでなく、将来的な要求まで追加された膨大な計画を毎年寸分の狂いもなく無条件に実行して最も安定的に急速な成長を成し遂げる部門となり、2024年に至ってその成長率は2020年に比べて391％で、実に驚くべき境地に達した。

着工はすなわち竣工という言葉が語られるほど、偉大な変革史を記録してきた5年間であった。

和盛地区第4段階の建設には、1万世帯の住宅と共に近代的かつ多様な文化生活施設も含まれている。新しい住宅が立派に建設された和盛地区に文化生活施設まで完璧に備えられて、和盛地区は都市区





画形成のモデル、造形芸術性と先進文明が調和を成した美しくて壮大な市街に変わった。

2026年2月15日、海外軍事作戦に参加して祖国の尊厳と名誉を轟かせた参戦烈士の遺族のためのセッピョル通りが和盛地区に立派に建設されて竣工した。造形化と芸術化、実用性と利便性が完備した高層・中低層住宅と商業及びサービス施設などの公共建築が理想的な調和を成した特色のある建築群は、全国が尊敬し押し立てる英雄たちと共にその遺族も栄誉の壇上に立たせ、烈士が生命をささげて守った祖国の美しい生活を思う存分享受させようとする朝鮮労働党の崇高な道徳・信義と厚い温情が生んだ実体であった。

その翌日の2026年2月16日、平壌では和盛地区第4段階1万世帯住宅の竣工式が盛大に行われた。これによって、朝鮮労働党第8回大会の提示した平壌市5万世帯住宅建設が立派に完了する画期的な成果が成し遂げられた。松新・松花地区や和盛地区だけにもほぼ6万世帯の







住宅と公共建築が壮大かつ華麗に建てられ、和盛地区には一つの近代的な都市行政区域が形成されて、首都建設5カ年計画の目標は超過遂行された。

平壌の変化は決してこれだけで終わるのではない。

2026年2月18日、平壌では和盛地区第5段階建設の着工式が盛大に行われた。

和盛地区第5段階の建設が始まり、これによって朝鮮の首都建設はより高くて新たな段階へ移行した。

言い換えれば、首都建設が住宅需要の解決を基本としていた段階から首都の全般的な様相を大幅に改善するためのより高い段階へ移行するようになるのである。

金正恩総書記は着工式で行った演説で、すでに現代都市の姿を整えた和盛区域を全ての面で完璧に整備し、それをモデルにして首都圏内の立ち後れた地域を改造し、住宅建設を引き続き強力に推し進めるとともに、文明の新しい境地を開拓しながら絶え間なく進歩していくのが、次の段階に達成すべき首都建設の目標だと述べた。

近年、首都の住民の生活では多くの改善がもたらされたが、決してこれに満足することはできず、雑居したり時代に立ち後れた住宅で生活している人々は言うまでもなく、新たに生まれる家庭まで見積もって首都の住宅建設を中断することなく長期的な展望に立って推し進めなければならないというのが朝鮮労働党の意図である。

これとともに、市民の高まる文化的需要に即して新しいサービス分野をより多く開拓し、随所にその拠点も発展的にうち建てて首都圏全般の様相と機能を向上させるための建設事業も計画されている。

われわれの首都平壌は世界で一番美しくて偉大な都市にしなければならないというのが朝鮮労働党の確固不動の意志である。

朝鮮労働党のこの意志によって、より美しくなる平壌、さらに若返る平壌が世界の人々にその雄姿を現す偉大な時代が開かれている。

中央が地方を羨望する時代

今、朝鮮では農村住宅と地方工業工場、3大必須対象、浅海養殖事業所の建設など人民に幸福をもたらす創造闘争が力強く展開されている。これらは全て、国の全地域を人民の理想郷に立派に整え、地方人民にも首都市民と変わりのない物質生活を享受させるだけでなく、首都のような文化的かつ衛生的な環境で無病息災で心配なしに暮らせるようにするためである。

朝鮮労働党が「地方発展20×10政策」を提示した後、各市・郡に近代的な保健医療施設と多機能化された文化生活施設の建設を当面の課題として提示したことには重要な意味がある。

地方を全面的に発展させる上で国家の指導と支援を保障しながら、地方の自立性を全面的に強化するのは朝鮮労働党が地方発展で依拠している基本方式である。言い換えれば、国家が地方の再建に必要な物質的・技術的土台と条件を十分に整え、それに基づいて地方が自分の陣容と潜在力をしっかり培って、確実かつ持続的な発展を遂げることである。

そのためには、各市・郡の経済的・文化的発展を導いていく自分の陣容、すなわち人々の精神的・文化的準備が伴わなければならない。今、本格的に建てられている近代化された地方工業工場を立派に運営するためにも、準備された経済技術陣が必要であり、各市・郡がその特性を効果的に活用して多様で特色のある発展の道程を切り開くためにも、人材を系統的に育成しなければならない。

そのためには、各市・郡で地域人民に最新科学と文明の滋養を絶えず提供して、近代工業も担っていくれっきとした主人公に育成し、多才多能な人材を探し出して育成する豊饒な礎であり揺らんで

ある多機能化された総合サービス所を建設しなければならない。

新しく建設する総合サービス所は、情報技術手段を備え、さまざまな最新科学技術データベースを構築することにより、地方の人民と青少年が現代科学と文明に近づき、地域の経済と文化の発展を主導できる眼識と資質を兼備することに大いに役立つようになる。それればかりでなく、住民が映画も見、スポーツ・文化生活もできる施設と環境衛生の保障された商業施設、その他各種の便益施設まで含めることにより、人々を啓発し、豊かな情緒を培い、新しい文化の開拓者、創造者にならしめることに資するようになる。

市・郡病院の建設も同じである。

一般的に病院は、インフラの末端から最後の医療設備や器具に至るまで技術的に互換されなければならない機能性建築であり、住宅や産業建築の建設に比べて数十倍の手間がかかり、高度の施工技術と高価な資材、莫大な資金が必要なので、まともな病院を一つ建設するのは容易なことではない。

しかし、金正恩総書記は全国人民が無病息災の生活を送れるようにするため、全国の全ての市・郡に近代的な病院を建設する決断を下したのである。

地方を変革し、文明・富強の国家を建設するために朝鮮労働党が構想し、強力に実行している全ての事業の中で人民の生命安全と健康増進を図るのは、当然第一義にすべきだということが総書記の意図である。総書記は、自国人民の生命と健康に責任をもつ意志と能力のない国家に対していかなる強大さや発展について語ることができず、制度の優越性について論じることもできない、と見なしている。

このような観点、このような立場からして、2025年に朝鮮では江東郡と竜岡郡、亀城市にそれぞれ異なる規模で一つずつテストケースとして病院を建設してモデルをつくり、経験も蓄積した後、2026年からは毎年間違いなく20の市・郡に病院を同時に建設

することになる。

2025年11月から年末まで、朝鮮では江東郡病院の竣工を始まりにして亀城市病院、江東郡総合奉仕所、定平郡総合奉仕所、開豊区域総合奉仕所、竜岡郡病院が相次いで竣工し、20の市・郡で地方工業工場の竣工式が盛大に行われて全国の人民を喜ばせた。人々は、首都の病院に劣らぬ近代的な市・郡病院とさまざまな文化生活条件が十分に整えられた総合奉仕所、地方の特色を生かした地方工業工場を見て回り、自分の夢と理想の実現が身近に迫っていることを改めて実感した。

新時代には、中央が地方を羨望し、地方の発展がわが国家の前進と発展を代表するようにし、地方の理想的な面貌が朝鮮式社会主義の真骨頂となるようにするのが朝鮮労働党の構想である。

今日、朝鮮人民は朝鮮労働党の雄大な構想に従って、国の全ての地域を人民の理想郷にするための闘争を力強く展開している。








룡강군병원




영화관











平壌総合病院と社会主義保健医療の未来

朝鮮では、社会主義保健医療を全人民の生命と健康に全面的に責任を持って保護・増進させる最も人民的で先進的な保健医療として発展させている。

風光明媚な大同江畔のうってつけの場所に位置している医療サービス拠点である平壌総合病院は、朝鮮労働党が長期間にわたって構想し願ってきた近代的な総合病院である。

金正恩総書記は2020年3月、平壌総合病院建設の着工式で行った演説で、近年、平壌市内に眼科病院や歯科病院などの近代的な専門病院と児童病院も建設したが、これに満足してはならず、われわれは万事



を新しく始めるという心構えを持ち、わが国の保健医療を人民的な保健医療、先進的な保健医療にするための第一歩を踏み出さなければならない、と強調した。

平壌総合病院は、人民の大切な健康と安全をよりしっかりと守ることのできる今一つの貴重な財産であり、これを中心的な拠点として国の保健医療部門を大きく飛躍させて、社会主義保健医療制度を強化・発展させる上でも飛躍の足場をもたらしたことになる。

病院には救急科と治療専門科、総合手術室、学術討論会場、サービス施設、ヘリポートなどが揃っている。特に、30の近代的な手術室が備わっている総合手術室は、病院の最も重要な核心施設にふさわしく最上の保健衛生性と治療の科学性、円滑性を保障できるように立派に完備された。

総書記は、国が立派に建ててくれた総合病院が人民の健康増進に確実に寄与できるかどうかは、全面的に医療従事者の人民に対する







徹底した奉仕精神と専門家としての実力によって左右されるとし、保健医療部門では医療陣を決定的に強化し、医科学技術を世界の先進水準に引き上げるための活動を着実に行い、全ての医師、看護師が熱烈な人間愛を身に付け、治療活動に最大の真心を尽くすようにしっかりと準備させなければならないと述べた。

平壌総合病院は、「地方発展20×10政策」に従ってテストケースとして建設された江東郡病院をはじめとする3つの市・郡病院と、2026年から毎年20の市・郡に建設される先進的な保健医療施設に対する科学的・専門的・系統的な指導と人的及び物質的・技術的支援を与える保健医療近代化の主導者、先導者、援助者となる。

平壌総合病院は、文化水準の高い国家建設を志向するわれわれの時代の社会主義保健医療の象徴、記念碑的実体であると言える。

威化島の変革が意味すること

2026年2月1日、朝鮮労働党中央委員会第8期期間に行われた最も膨大な事業の一つであり、朝鮮の青年たちが第9回党大会に贈る誇るべき創造物である新義州温室総合農場の竣工式が盛大に行われた。

千数百棟のさまざまな形の近代的な温室と野菜科学研究中心、数百世帯の文化住宅、旅館や便益サービス施設、託児所や幼稚園などの公共建築、多様な文化生活拠点と特色のある園林景観が調和を成した新義州温室総合農場が建設されて、代々宿命のように水害をこうむってきた西北部国境地域の威化島地区が強固な潜在力を蓄えた地方発展の新しいモデルに変わった。

自然の災厄に見舞われた地に数千世帯の住宅を建て、堅固な堤防を築くことだけでも奇跡だと見なされていた当時、この地区に最大規模の温室総合農場を建設するスケールの大きい構想を示した金正恩

総書記は、この膨大な建設を軍人と青年たちに一任した。

それは決して、国に温室総合農場を建設する労働力がなかったからではない。

未来の主人公である青年たちを膨大な建設過程を通じて愛国の情熱と自らの力に対する確信に満ちた頼もしい革命の継承者、自活自決の強者に育てるのが総書記の崇高な志であったのである。

総書記の崇高な志を体した数多くの青年が新義州温室総合農場の建設に志願した。自分たちを大建設戦域へ呼んだ祖国の意図をよく知っている彼らは、享受や安楽ではなく、苦労と鍛練を青春期の甲斐ある選択とし、壮大な建設過程で克服と革新、愛国を知る強い意志と熱血の精神を培養した。

金正恩総書記は温室総合農場の建設現場を重ねて訪れ、青年たちを不屈の困難克服精神と鋼鉄の気概や闘志を身につけた闘士に育て上げることに優先的な関心を払った。着工式のときには情熱的な激励の辞を述べて青年たちに力と勇気を与え、建設現場を現地で指導するときには建設も学習も生活も熱情的に、覇気にあふれて行うよう強調した。2025年9月にも建設場を現地で指導しながら、島地区を膨大な潜在力を持つ「宝物島」に変えている青年たちの力は本当に大したものだとし、彼らに特別感謝を送った。

朝鮮労働党の示した雄大な構想と課題が一つ一つ実現され、創造の富が増えることも喜ばしいことだが、それより総書記にとってもっと大事に思われるのは、この過程を通じて青年が愛国の巨木に育っていることであった。この朝鮮を担って立つ新世代が祖国のことを先に考え、試練に打ち勝ち、革命から生きがいを求める愛国者の大部隊に成長したことこそ、この世の億万の財宝にも比べられないわが党と人民の喜びであり、誇りとなるのである。

それゆえ総書記は、2026年の新年には国家的な行事が終わり次第、遠くの北辺にまで足を運んで新年を迎える青年建設者を熱烈に







祝い、わが人民は青年の発散する滔々たる力から、われわれの若い世代の熱情と真情がこもった一つ一つの創造物から祖国の限りない繁栄を描きみており、皆さんの頼もしい成長から朝鮮式社会主義の継承を確信している、と大きな満足を表した。

金正恩総書記は竣工式で意義深い祝賀演説を行い、今日と明日の堂々たる建設者、勇敢な開拓者たちの愛国の歩みと共に祖国の大地はより豊かになり、美しくなるであろうし、われわれの理想と決心は必ず絶え間ない前進と勝利として輝くであろうと確言し、彼らと共に記念写真も撮った。

威化島地区の変革、それは祖国の富強のためにささげる生を最大の栄誉と見なし、人民の財産を創造する闘争で青春の誇りと幸せを求める革命の継承者、真の青年愛国者の大部隊を持っているため、朝鮮の将来は明るく、美しい未来は必ず早められるということを全世界に力強く誇示した。

三光畜産農場から見通す農村の未来

2026年2月2日、三光畜産農場が新時代の社会主義農村建設と畜産業発展の新しいモデルとして建てられて操業した。

金正恩総書記は操業式で行った演説で、農村発展を新たな質的変革の段階へ移行させなければならないと述べた。

総書記が農村発展の新たな質的変革の段階への移行という表現を使ったことには意味がある。

ここ数年、朝鮮では農村住宅が近代的に新設され、穀物の生産構造と農村機械化、灌漑体系、営農方法、農民の思想意識水準と文化水準を含めて各領域で改善がもたらされている。しかし金正恩総書記

は、今の程度で進むことで、朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会が提示した新時代の農村革命綱領の目標を円滑に達成できると見てはいけないと述べた。農業勤労者が全ての面で現代科学技術と文明の恩恵を全て享受できるようになってこそ、農村発展政策が本当に成功したと見ることができると思っている。

このような面から見るとき、三光畜産農場は朝鮮の農村の未来を直接見通せる標準実体だといえる。

人手と敷地を節約しながらも季節にかかわることなく乳を生産できるヤギと乳牛の屋内飼育方法を導入したこの農場では、管理工が近代的な畜舎に座ってコントロール・システムを扱い、個体別に飼料保障や獣医防疫のような飼育管理を科学技術的・工業的方法で行っている。

搾乳工程と運搬、乳加工工程が完全に自動化され、飼料加工や飼料生産などの大部分の工程も工場化され、ここに近代的な畜産研究分所まで配属されている。生産と科学技術の一体化、畜産と農産の環状循環生産システムが確実に実現され、生産と経営活動状況をリアルタイムで把握・分析・指揮できる知能型統合生産システムも確立している。

農場ではチーズやバターのような乳製品も生産している。

里所在地に教育区画、文化生活区画、住宅区画が整然と配され、各分場と作業班、加工場、学校と幼稚園、病院と薬局、商店、文化会館、便益サービス建物などの公共施設も遜色なく整えられている。

耕地面積を除いた全ての区画に整然と植えられた地被植物と良種の樹木が調和を成し、治山治水に万全を期して周辺の山が樹林化され、貯水池、河川のほとりが情緒的な休息空間、一風変わった公園に変わり、自然エネルギーを利用する太陽熱発電所まで建設されて、三光里は文字通り理想的な農村に様変わりした。

ここ数年間に行ってきたように単に農村住宅を新しく建設し、機

械化水準を高め、営農方法を改善する程度ではなく、三光畜産農場のように全国の農村を一新させる質的変革の段階へ移行しなければならないというのが金正恩総書記の意図である。

三光畜産農場の操業は、朝鮮の農村、特に畜産業の今後の発展方向を指し示す新たな出発点、革新的な基準となる。

総書記の構想は、まず全国的な規模で農業生産と直接関係のある土地と道路、灌漑施設、電力系統を整然と効率的に整理・完備し、地帯の特性に合わせて農作業の総合的機械化を促し、ここに無人化技術、AI技術を積極的に導入することである。今後、作業班の建物と温室をはじめとする生産活動の拠点、生産施設もきちんと整備し、多用途化する。

農村の都市化、文明化、先進化も積極的に推し進める。農村住宅をはじめ全ての建設物や創造物の質をしっかり保障して農業勤労者の便益を最大限に図り、現代文明を実質的に享受できるようにして













都市と農村の格差を縮める。

思想、技術、文化の3大革命の遂行に引き続き拍車をかけて、農業勤労者を思想的・精神的に、文化的、技術的に準備された近代農村の主人公とならしめるための活動も力強く進める。

国の畜産業を世界的水準の近代畜産に確実に転換させるために、優良品種の種子確保と十分な飼料保障、科学的な飼育管理と徹底した獣医防疫、生産と経営管理の情報化、知能化を畜産業発展の5大ポイントとしてとらえていく。

特に、国の牧草地の面積が限られている条件の下で屋内飼育を奨励・拡大しながら畜産業の情報化、知能化、集約化、工業化を実現することを目標としている。

今日、農業勤労者だけでなく全国の人民は、三光畜産農場の変革的な発展からさらに豊かで文化的な社会主義農村の将来を見通している。

開花・発展する社会主義文明

社会主義文明の開化をわれわれの地に、われわれの資源を持って、われわれの方式で実現しようとする朝鮮労働党の遠大な構想によって、全国各地で新しい生活、新しい福祉の実体が次々と生まれる興隆の時代に、美しい海岸景観で有名な葛麻半島に元山葛麻海岸観光地区が朝鮮式観光業の代表作として建設された。

昔から絶景として広く知られている海岸地帯の風致と調和してさまざまな現代美を誇る数百棟の建物が完璧な芸術的互換性と連結性を成している元山葛麻海岸観光地区は名実共に朝鮮式の海岸観光都市である。

名勝を訪ねる観光客が好みに合わせて選択できるほぼ2万人宿泊能力のホテルと旅館がある観光地区には、全ての条件を十分に備え

















た海水浴サービス施設と多様なスポーツ・娯楽施設、商業・給食サービス施設があり、東海名勝の珍味を満喫できる文化生活施設が十分に整っている。

生態環境に恵まれた海岸名所の葛麻半島が優雅で近代的な変貌を遂げたのは、世紀的な変革だと言える。

朝鮮労働党の人民大衆第一主義政治、朝鮮式の社会主義制度によって生まれた人民の高い尊厳と幸せの象徴だということに、この海岸観光地区の真の意味と特有の趣があるのである。

金正恩総書記は、朝鮮人民に文化的な憩いの場を提供するための大建設を国挙げての事業として強く推し進めるよう精力的に導いた。数千件の設計形成案を細かに検討し、観光地区の全ての建築が最高のレベルで完工するよう、その方向と方途を一つ一つ明示した。

素晴らしい人民の憩いの場、世界的な観光公園に建設された元山葛麻海岸観光地区で観光サービスが始まった。素晴らしい観光名所への旅行を熱望する多くの人々が運営の初日からここへ詰め掛けた。江原道や咸鏡南道の勤労者は言うまでもなく、首都平壌と祖国の北端に位置した咸鏡北道、両江道、慈江道から、国の西部地域の各道・市・郡からやってきた無数の老若男女が新しい文明を満喫するために観光地区に足を踏み入れた。

海岸地帯の環境によく似合う門柱からはじめて造形芸術的に独特な美を誇る400余棟の建物が理想的な調和を成して白浜に建ち並んだ観光都市の壮大かつ華麗な姿は観光客を驚嘆させている。

海岸観光の珍味を思う存分味わえるように海水浴サービス施設と多様なスポーツ・娯楽施設、商業及び給食サービス施設が十分に整えられた観光地区を喜びの中に見て回る観光客は、労働党の時代に開花する観光文化の現実を胸いっぱい感じている。

朝鮮東海の清い水の中で海水浴を楽しむ人々、水しぶきを立てる高速ボートの軽快な疾走と砂場を走り回るオトバイのうなり、最上

の海岸観光を真っ先に楽しむ喜びをカメラに収める勤労者で明沙十里は文字通り人波十里に変わった。

観光客の間で一番人気があるのは明沙十里屋外遊泳場である。ここでは急降下ウォータースライダー、橇ウォータースライダー、どんぶり型急速ウォータースライダー、水上スキーなど、さまざまな水遊び道具を利用して特有のきわどい快感を味わいながら上げる嘆声が限りなく響き渡っている。

商業及び給食サービス施設でも行き届いたサービスで観光客を楽しませている。

元山葛麻海岸観光地区の竣工は、朝鮮で国家観光業の新時代を開いた契機となる。

朝鮮には妙香山、金剛山、麻田海水浴場をはじめ多くの観光地があり、そこにはホテルと旅館、さまざまなサービス施設があるが、国家がこのように莫大な投資で総合的な観光地区を建設したのは初





めてである。多様かつ豊富な観光資源を持っており、特有の政治的安定性と制度的強固さが保証されている朝鮮において観光産業は文化分野の開花・発展を促すとともに、当該地域の発展を推し進め、国の全般的な経済成長に寄与する原動力として、大きな展望的意義を持っている。

2026年1月には温泉治療及び保養施設、総合的なサービス施設が立派な条件を備えて特色のある建築群を形成した温浦勤労者休養所が記念碑的建造物として建設された。自然環境の保存を重要な原則として掲げ、山河の景色がそのまま人民の健康増進と情緒生活に寄与するように気を配った金正恩総書記の指導によって温浦勤労者休養所は、生い茂った林の中へ伸びた散歩道と四季休養所区域を巡り流れる河川などによって独特な自然美を誇っている。

また、休養所の各区画は実用的に調和が取れるように配置され、建築の全ての要素も周辺の自然環境にやさしく構成された。



温浦勤労者休養所の竣工によって人民の健康増進と福祉の向上に寄与する多様な文化生活領域と空間を不断に拡大・造成するための事業で新たな前進が遂げられた中、朝鮮東海の名勝地である塩盆津海岸でも塩盆津海岸公園地区の竣工式が行われた。数百人の収容能力と映画館、商店、電子娯楽場、遊泳場などの総合的なサービス施設が整えられた塩盆津海洋旅館と海水浴場などが立派に建てられて、海岸地域の趣と特色が生かされた憩いの場で人民は文明を満喫できるようになった。

現在、朝鮮では元山葛麻海岸観光地区や温浦勤労者休養所などの建設によって、観光産業建設、新しい文化休養地建設の貴重な経験を積んだことに基づいて各地域にさまざまな類型の有望な大規模観光文化地区と文化休養地を最短期間内に建設する事業も進められている。今後、朝鮮では文明建設が強力に推進されて、人民の文化的要求を充足させるであろう。

むすび

朝鮮がこの5年間に収めた全ての成果は、金正恩総書記の賢明な指導の下、全人民が愛国の意志をもって固く団結し、刻苦奮闘して達成した貴い結実である。

決して容易ならぬ5年間の闘争を通じて、朝鮮の力は百倍、千倍に強くなり、何をもってしても力強い朝鮮の前進を阻むことはできなかった。

今、朝鮮人民は自分の力に対する誇りと自負を抱き、信念と勇気に満ちてより高くて新しい発展段階へ前進していく決意を固めている。

興隆する朝鮮

執　筆　金大浩、金哲赫
編　集　崔銀革
翻　訳　金光哲
発　行　朝鮮民主主義人民共和国
　　　　外国文出版社
発行日　2026年4月

ㄱ-260880491063

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp

2021–2025

ISBN 978-9946-0-2800-2
9 789946 028002 >